

和歌山信愛女子短期大学 2022 年度 F D 活動報告書

2023 年 6 月

FD・教学 IR 委員会

目次

目次.....	1
I. 目的.....	2
II. FD研修会.....	3
1) 第1回FD・SD 合同研修会.....	3
2) 第2回FD研修会.....	8
III. 授業の相互参観.....	31
1) 概要.....	31
2) 相互参観報告書.....	32
生活文化学科 生活文化専攻.....	33
生活文化学科 食物栄養専攻.....	36
保育科.....	41
IV. 授業評価とFD実践報告書.....	48
1) 授業評価.....	48
2) FD 実践報告書.....	48
生活文化学科 生活文化専攻.....	49
生活文化学科 食物栄養専攻.....	62
保育科.....	92

I. 目的

本報告書は、和歌山信愛女子短期大学（以下、本学という。）の FD・教学 IR 委員会規程に基づき、教職員の能力の保障と開発を目的に、2022 年度に行われた FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動について報告するものである。

2022 年度における本学の FD 活動のテーマは、『授業改善に生かす学生ポータル活用法』である。このテーマに基づき、教員の教育能力向上を図るために今年度行った FD 活動は以下の通りである。

- ・ 2 回の FD 研修会
- ・ 授業の相互参観
- ・ 学生による授業評価と FD 実践報告書の提出

II. FD 研修会

1) 第1回FD・SD 合同研修会

日時：8月29日（月） 16:00～17:30

場所：1309 多目的コンピュータ室

テーマ『授業改善に生かす学生ポータル活用法』

講師：株式会社 学びと成長しくみデザイン研究所 桑木 康宏 氏

出席： 教員 25 名 事務職員 10 名

欠席： 教員 2 名

2022 年 8 月 29 日

2022 年度 第1回FD・SD 研修会 出席者名簿

所属	氏名	所属	氏名
生文	中西 淳平	保育	渡辺 五八
食物	芝田 史 仁	保	森原 徹也
事務	渡本 真伍	食物	五木田 祐里
保育	大道 文子	食物	菊村 一花
保育	金谷 有希子	生文	雨夜 菜穂子
生文	勝本 泰弘	生文	伊藤 元
保育	小滝 正彦	食物	野志 昌弘
保育	森田 美世子	食物	五月 美帆
生文	真砂 明子	〃	西出 亮徳
保健	田村 清子	〃	堀江 大輔
保育	今西 香寿	事務	宮下 愛子
生文	東口 佑木	事務	郭 安紀彦
保育	仲谷 結衣	事務	若本 佑和子
食物	岡井 明美	事務	中本 恵美
保育	小笠原 真弓	事務	藤田 陽平
生文	山本 裕子	〃	石井 恵
保育	石川 裕子	〃	五十嵐 学

〃 児湯 啓輔

【進行】

日程	2022 年 8 月 29 日 月曜日 16:00-17:30
場所	https://zoom.us/j/93234036819?pwd=T2VkYmRLWktsMVhZTFYwMUprZz09 ミーティング ID: 932 3403 6819 パスコード: 230636
目的	① 導入したシステムで何をできるかを知る ② 蓄積したデータを利用してアセスメントワークショップに取り組んでみる →できそうなところは、来年度シラバスに反映させる。
流れ	①はじめに: 挨拶(5 分) ②授業アンケートの分析機能の確認(10 分) 場所: ポータル>アンケート>対象アンケートの集計結果 ③マップ分析+授業分析機能の確認(15 分) マップ分析の場所: ポータル>自己評価>データ分析 授業分析の場所: ポータル>自己評価>授業分析 ③ワーク: 検討(個別ワーク 5 分+班別ワーク 40 分) 個別検討 カリキュラムマップの気になるところの確認&メモ。 科目間連携が必要そうなところ。 班別検討(学科・専攻ごと) メモしていた内容を順番に共有し、論点整理を行う。 論点に関して、いつ頃検討を行うか決める。 すぐに解決すべき事項は時間のある範囲で検討を進める。 ④検討結果の共有(10 分) 学科・専攻別に共有 ⑤おわりに: まとめ(5 分)
事後アンケート	https://forms.gle/GbvQjt73GDEufUZ28

【カリキュラムアセスメント実践報告書】

【生活文化専攻】

カリキュラムアセスメント実施報告書

報告日 2022年8月29日

実施責任者	勝本 泰弘
アセスメント テーマ	マップ分析結果の点検を行い、課題意識を共有する。 また、併せて、来年度に向けた科目間連携の可能性の検討を行う。
参照した資料	カリキュラムマップ

実施日	実施概要/形式	参加人数
2022年8月29日	カリキュラムアセスメントワークショップ	7 人

■ アセスメントの結果見えてきた対策すべき事項

・気になっているところ ・科目間連携の検討が必要と思っているところ	検討結果 (検討を行う時期)
学生の自己評価よりも教員の評価の方がだいぶ高い授業がある。	大学の指針としては、差が生まれないようにするということがあるので、対応策を検討する必要がある。
学生の自己評価よりも教員の評価の方がだいぶ低い授業がある。	大学の指針としては、差が生まれないようにするということがあるので、対応策を検討する必要がある。
レポートで成績評価をするが、なかなか差をつけられず全体的に高めになってしまう。	レポートによる成績評価をしている教員で、差を上手くつけられている実例を共有していく。
情報処理演習をやっているが、基礎演習において情報のことをやっており、内容がかぶっている場合がある。	授業担当者間で、内容について協議して連携していく必要がある。
信愛教育について、建学の精神に関わる科目において、学生の自己評価と教員の評価との間に差があることが気になる。	
B-3、A-3領域については、学生の自己評価と教員の評価との間に差が少ない傾向がある。	領域にある科目担当者同士で、原因と対策を検討する必要がある。
A-4、C-2領域については、学生の自己評価と教員の評価との間に差が多い傾向がある。	領域にある科目担当者同士で、原因と対策を検討する必要がある。

※適宜、行を追加してください。

【食物栄養専攻】
カリキュラムアセスメント実施報告書

報告日 2022年8月29日

実施責任者	森岡 美帆
アセスメント テーマ	マップ分析結果の点検を行い、課題意識を共有する。 また、併せて、来年度に向けた科目間連携の可能性の検討を行う。
参照した資料	カリキュラムマップ

実施日	実施概要/形式	参加人数
2022年8月29日	カリキュラムアセスメントワークショップ	8人

■ アセスメントの結果見えてきた対策すべき事項

・気になっているところ ・科目間連携の検討が必要と思っているところ	検討結果 (検討を行う時期)
理系科目で教員の評価が低く、学生の自己評価が高い傾向にある。	基礎から応用の連携が必要である。
非常勤の科目で教員の評価が低く、学生の自己評価が高い傾向にある。	常勤、非常勤との連携が必要である。
教員の評価が高いが、学生の自己評価が低い科目がある。	授業内容の検討が必要である。
実習系の科目に関して、教員の評価が低く、学生の自己評価が高い傾向にある。	授業内容の検討が必要である。全体的な授業構成の検討が必要である。
基礎演習に関して、教員、学生ともに評価が低い。	授業内容の検討が必要である。

※適宜、行を追加してください。

【保育科】

カリキュラムアセスメント実施報告書

報告日 2022年8月29日

実施責任者	小笠原 真弓
アセスメント テーマ	マップ分析結果の点検を行い、課題意識を共有する。 また、併せて、来年度に向けた科目間連携の可能性の検討を行う。
参照した資料	カリキュラムマップ

実施日	実施概要/形式	参加人数
2022年8月29日	カリキュラムアセスメントワークショップ	10人

■ アセスメントの結果見えてきた対策すべき事項

・気になっているところ ・科目間連携の検討が必要と思っているところ	検討結果 (検討を行う時期)
音楽系の科目のは教員の評価が低く、学生の自己評価が高い傾向にある。	教員の期待値と学生の理解度の差があるため、現場ではどこまでの知識や実践力が求められているのかを授業内で学生に伝え、すり合わせる機会を作る必要がある
B1（教育的愛情）の科目全体が学生の自己評価＞教員評価の乖離が最も高かったが、全体的に乖離が少ない傾向にある（0.5以内）	期末で再試験が多い科目に教員評価＜学生評価の傾向があるため、授業内容の再検討等が必要かもしれない
「ボランティア論」評価の基準の再検討が必要（学生の自己評価＜教員評価）	最終評価を合否にするかを検討。ボランティア先から評価をもらうなど、客観的評価につながる仕組みが必要
非常勤の科目で教員の評価が低く、学生の自己評価が高い傾向にある	常勤、非常勤との連携が必要である
実習等学外で行っている授業の評価を「合否」でできないか？（理由：実習先の評価基準がそろっていないため、学生の成績に影響をしている）	全体的な授業構成や評価基準の検討が必要である
自己評価と成績評価の標準偏差を算出したが、学生評価の標準偏差（0.25）は小さく、成績評価（0.84）は比して大きかった（2021年度1年生）。自己評価が一部にかたまっている傾向もあるのではないかな。	学生に客観的に自己評価ができる機会、振り返る機会を設ける必要があるかもしれない。 （例：シラバス内容の確認、小テスト等を返却するなど、自分のできている部分とできていない部分の確認をする機会を授業中に設ける必要がある）

2) 第2回FD研修会

日時： 2022 年 12 月 19 日 (月) 17:00~18:30

場所：1309 多目的コンピュータ室

研修の到達目標：A-ポータルの授業分析・授業評価結果分析の機能を活用し、授業改善に生かすことができる。

参加者 教員 24 名 事務職員 1 名

欠席者 教員 3 名

2022 年 12 月 19 日

2022 年度 第 2 回 FD 研修会 出席者名簿

所属	氏名	所属	氏名
生文	中西 諒平	生文	雨石 菜穂子
食物	芝田 史仁	保育	森足 真由子
食物	野村 昌弘	"	小笠原 真弓
生文	伊藤 亮	"	金谷 有希子
食物	岡井 明美	"	屋口 匠人
食物	森岡 美帆	"	井澤 乙生
生文	東口 依未	"	石川 裕子
生文	山本 桂子	事務	梅本 真伍
生文	勝本 泰弘		
食物	堀江 大輔		
生文	真砂 知子		
保育	今西 香寿		
"	仲谷 徹子		
食物	成田 仁美		
保育	小瀬 正寿		
保育	大道 2117		
食物	五木 日 祐里		

【進行】

(1) はじめに(5 分程度)

〈研修の準備〉

- ・ A-ポータルにログイン (アカウント・パスワード準備)
- ・ Google にログイン (アカウント・パスワード準備)
- ・ ワークシートの確認 (PC 上のリンクより)

(2) 第 1 回FD研修会の振り返り: マップ分析(10 分程度)

〈操作手順〉

①A-ポータルログイン ⇒ ②学生指導【自己評価】 ⇒ ③【データ分析】 ⇒ ④【自己評価】 ⇒ ⑤【在籍生を含む対象を再集計】 ⇒ ⑥所属・カリキュラム年度選択 ⇒ ⑦【検索】 ⇒ ⑧【DL】

(3) 授業分析(30 分程度)

〈操作手順〉

①A-ポータルログイン ⇒ ②学生指導【自己評価】 ⇒ ③評価【授業検索】 ⇒ ④評価・年度 選択 ⇒ ⑤【検索】 ⇒ ⑥担当科目 詳細【分析】

i. 分析結果の自己評価

- ・ GP と自己評価の相関係数 ⇒ 到達目標と評価方法の妥当性
- ・ GP と GPA の分布 ⇒ 成績評価の妥当性

ii. ワークシート作成

到達目標の設定や評価方法に関し、授業分析により見えてきた課題と改善計画を記入

(4) 授業評価結果の分析(30 分程度)

〈操作手順〉

①A-ポータルログイン ⇒ ②【アンケート】 ⇒ ③【検索条件】 ⇒ ④カテゴリ・年度・学期選択⇒ ⑤【OK】 ⇒ ⑥〇〇年度〇期〇科 (〇専攻) 〇年: 授業評価アンケート【集計結果】 ⇒

➤ ⑦【担当科目】 ⇒ ⑧評価結果

➤ ⑦【分析】 ⇒ ⑧【相関分析又は傾向分析】 ⇒ ⑨条件選択 ⇒ ⑩【実行】

i. 分析結果の自己評価

- ・ 集計結果における偏り ⇒ 課題
 - ☐ 他の質問項目に比べ、極端に低い項目がないか?
- ・ 質問項目間の相関や傾向 ⇒ 要因や改善策の検討
 - ☐ 評価結が低い質問項目に対して相関や傾向が高い項目は何か?
 - ☐ 質問 2 『この授業は興味や関心が持てた。』『この授業は自分のためになる内容だった。』と相関や傾向が高い項目は何か?

- 質問 4『私はこの授業に意欲的に取り組んだ。』『この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。』と相関や傾向が高い項目は何か？

ii. ワークシート作成

- ・ 授業評価結果・分析から分かった課題と改善策
- ・ 学生の興味・関心、学習意欲、学習実感の向上につながった授業内容や方法と次年度以降の改善策

(5) FD 実践報告書の作成について(10 分程度)

〔操作手順〕

①Google ログイン ⇒ ②【ドライブ】 ⇒ ③【共有ドライブ】 ⇒ ④2022 年度 FD 実践報告書様式開く ⇒ ④【ファイル】 ⇒ ⑤【コピーを作成】 ⇒ ⑥名称変更、フォルダー：マイドライブ選択⇒ ⑦【コピーを作成】

- ・ 授業評価を受けた全ての担当授業について記載
- ・ 提出締切：2 月末まで

(6) まとめ(5 分程度)

18:30 終了

第2回FD研修会 報告書

報告日 2022 年 12 月 19 日

実施責任者	芝田 史仁
アセスメント テーマ	授業分析及び授業評価の結果を受け、課題を共有する。 また、併せて、来年度に向けた授業改善計画の検討を行う。
参照した資料	授業分析結果 授業評価アンケート結果
実施日	2022 年 12 月 19 日

■ アセスメントの結果見えてきた対策すべき事項

氏名	授業分析で示された課題 (対象科目、到達目標・評価方法の妥当性)	改善計画
芝田	解剖生理学 ・ GP と到達目標の相関では、知識・理解に対応する目標については高い相関が示されたが、情報収集・分析力、生涯学習・自己管理能力に対応する目標への相関が低いという結果。 小テストや期末試験によって測定しにくい項目への対応が必要 ・ GP と GPA の相関は比較的高い傾向。評価結果の妥当性を示す結果。	情報収集・分析力、生涯学習・自己管理能力は、まとめシートの提出により評価していたが、評価基準を見直し、学生の状況に合わせて細分化する。
生活文化学科生活文化専攻		
勝本 (真砂)	情報処理演習 ・「ICT を活用して情報を適切に処理し、文書作成やデータ処理ができる」という項目に関する GP と自己評価の相関が低い。一方「与えられた課題に応じて情報を収集・活用し適切に処理・解決できる」「ICT の基礎について理解し、基本的な操作ができる」「情報モラルを守り、積極的に ICT を活用しようとする姿勢	生徒の 元々の Excel や Word 活用能力に大きな差があり、能力の高い学生が行える発展的課題と全員がその時間に完了する基本課題の2つを作成し、実施することで、すべての学生に、授業を受けることにより 自己の活用能力が高まったという充足感を与えたい。

	がある」という項目は相関が高い。 基本的な知識や操作に対する理解は進んでいるが発展的な活用へは至っていない。	
伊藤	日本国憲法 ・GP と到達目標の相関は「中」程度となっているが、特に「日本国憲法の各条文の内容と、社会の仕組みについて理解できる」が低いという結果になっていた。レポート試験の課題などにおいて、該当する到達を明確に問うような設問を工夫する必要がある。 ・GP と GPA の相関は比較的高い場合と、極端に低い場合に二分されていた。評価結果の妥当性を見直す必要がある。	レポート試験の記述内容の採点方法を改善していく。到達目標の達成度を評価するポイントを明確にしつつ、それを反映した評価を行う。
中西 (真砂)	「コンピュータ科学演習」 ・GP と自己評価の相関係数は、0.03~0.19 (無~中) であり、非常に相関が低い。授業で扱った内容に沿った処理ができていて、その課題をきちんと提出できていれば、高い評価を与えているため、学生の自己評価の「教員のサポートがあったからでただけで、自分だけではできないのでは？」と乖離しているところが非常に大きいのが課題と考える。	・到達目標の設定の見直しからはじめ、教員のサポートなしに自力で課題を完成させるようにし、こまめにフィードバックをすることで、教員の評価と学生の自己評価を近づけるようにする。
山本 (真砂)	「インターンシップ I」 ・GP と到達目標の相関では「社会と関わるときに生じる責任を理解し、その責任を果たすことができる」という項目では高くなっているが、その他の項目については中程度の相関となっている。一番相関が低かったのは「インターンシップ参加に必要な知識を理解する」という項目であるが、これは授業で知識よりも実践を重視しているからであると思われる。知識定着の工夫が必要である。	・知識として覚えておきたいことを一つの資料にまとめる。 ・実践の中でも覚えておくべきことについては強調して伝える。 ・小テストなどで知識の定着を図る。

	・ GP と GPA の関係を見ると、他の科目よりは高めの成績となっていることがうかがえる。	
雨夜	「秘書学概論Ⅰ」 秘書実務に資する知識の習得については、GP と自己評価の相関係数が高い一方、コミュニケーションスキルの習得においては相関係数が小さい。	現在の成績評価においては、コロナ禍における感染対策に鑑み、机上のペーパーベースの評価に比重を置いているところ、コミュニケーションスキルの習得状況の評価においては、ロールプレイや面接形式等、実践的な効果測定方法を検討する必要がある。
東口	家政学概論 GP と到達目標の相関では、全体的に中程度の相関結果だった。知識理解の項目では、学生の自己評価よりも教員の評価が低い。	授業内での確認テストや課題の提出を追加し、学生自身の知識理解の定着度を図る必要がある。
生活文化学科食物栄養専攻		
西出	食品衛生学 ・ GP と到達目標の相関について 得られた結果は全て中程度であった。 ・ 中程度の到達目標について 集計結果から学生達の望む講義内容について シラバスを参照に検討した結果、食品衛生学の一般的な知識だけではなく、より実践で 技術的な対処についてさらに理解を深め、社 会において実践での対処ができることを学生 達は到達目標として捉えているのではないかと集計結果から教員側として捉えている。	食品衛生学の授業において ・ 授業終了後に毎回実施している小テストにおいて実力養成を行っているが、その出題内容に応用問題などを含めて対処することを今後の目標としている。
岡井	臨床栄養学各論 ・ GP と到達目標の相関では、知識・理解に対応する目標については逆相関が示された。教員が求める目標の到達度と学生の考える到達	関連する項目の授業終了時に症例を用いた応用問題を実施し評価していたが、評価基準を学生の状況に合わせて細分化する見直しが必要であ

	度に乖離があったと考える。 ・シラバス作成にあたり、関連する教科のシラバスの到達目標を参照したシラバス作成、目標設定が必要と考えられる。	る。 改善策として、毎回の授業で目標と復習範囲の提示、確認問題の実施を行っていく。
森岡	栄養教育論 I ・GP と到達目標の相関では、知識・理解、態度・志向、技能・表現、思考・判断に対応する目標について高い相関が示された。 ・GP と GPA の相関は比較的高い傾向で、評価結果の妥当性があると考えられる。	毎回の授業で、目標を示し、前回の授業の内容について確認テストを行っていることが、評価の結果の妥当性につながっていると考えられるので、今後も継続していく。
成田	調理学 ・GP と到達目標の相関は中程度であった。到達目標の項目はどれも知識・理解に対応する目標である。 ・知識・理解に関する内容について、実際の到達目標に達していない学生のうち、自己評価を3以上と回答している学生が複数いることがわかった。	・各回の授業ごとに、知識・理解度をはかるための小テストを実施するなど、自己評価を適正にとらえられるようにするとともに、自主学習を促したい。
野志	生理・生化学実験 ・GP と GPA の相関および態度・志向に対応する目標については高い相関性が得られているが、思考・判断に対応する目標における相関性が低いという結果が得られている。 →当該領域における本授業での目標は「得られた結果について、考察することができる」である。 →提出課題の出来から推測するに受講生の考える「考察」とこちらの求める「考察力」の捉え方に大きな乖離があると考ええる。	学生の自己評価は教員の評価より極めて高い傾向がみられる。特に GP0 や1 の学生が自己評価4 や5 をつけているケースが多くみられる。 →実験授業は「なぜこの授業を受ける必要があるのか」これを理解・納得させない場合に授業に対する集中力を大きく欠く受講生が増大すると予想したことから、本授業を受けることによる「益」の説明を重視したところがある。すなわち、この授業では何を何のためにするのかの説明やそのヒントの提示に時間を割いて

		きた。 →担当者としては気づきを促したつもりであったが、こちらの提示するヒントを写しとることや授業中にこちらの指示通りの操作を行うことを「考察」と勘違いしている受講者が多い節を感じた(特に GP の低い受講生でその傾向を強く感じる)。 →本科目は、レポート課題による評価を重視した科目としてある。そこで、この課題をより量より質とした方が良いと感じた。特に結果に至る過程の理解を促し、得られた情報から何がわかるか、また自身が得た結果の正しさを判断させることが重要であると考え。調べ学習の側面を協調するなど、自身の力で問題を解決させることがこの自己評価と結果のギャップ改善につながると思われる。
堀江	食育実践演習 ・履修者数が少ない中での分析となるが、「学修経験を活かし、適切な食育プログラムを企画・実践できる」「子どもの食育を実践する基礎的知識を身につけている」の項目で、相対的に自己評価を低くつける者が見られた。技能・表現、知識・理解にあたる項目であり、具体的な実践を増やすなどの方法で、実施に必要な技能などをつけていくことが必要と考えられた。	・実際に子ども達の前で行う実践演習、そしてその準備にかける時間を増やすことで、学生が自身の得る知識・技能に具体性を持たせることができ、身に付けたことを実感できるのではないかと考えられた。
五木田	製菓理論と製菓実習 ・「意識と理解」「思考と判断」において、理論	実習は理論で学んだ内容も学ぶが、

	では高い評価をえているが、実習では逆の結果がでたことが気になった。製菓理論は座学なので「授業」という認識が学生にはあるが、製菓実習は授業とは違う、例えば「料理教室」という認識があったのではないかと思われる。	その他 食材の扱いや衛生管理等を学ぶ場でもあるので、「実習＝授業のひとつである」という認識を高めるために、第 1 回目の授業時に実習室に関する説明時間を長く持ち、学生にも実際行動させる内容を考える。
若林	欠席	
保育科		
小笠原	保育原理 I GP と自己評価の相関性は高い傾向が見られた。特に、「保育の現状や今後の課題について考えることができる」の項目で高い結果が得られた。他の三項目は中の結果であった。	クラス間で差異が生じている項目を分析し、対象に合わせて工夫する必要がある。
井澤	子どもの表現遊び ・ GP と自己評価の相関係数は無から中であり。特に「多様な表現力を身に着け、子どもの表現を支える活動に活かすことができる」は低い結果であった。	演劇を通して学ぶ総合的な表現の授業であるが、指導法も含め改善する。
小滝	日本語演習 ・ 自己評価と GP の相関に関しては、他者と協力して課題に取り組むことができることに関して相関が低い結果が出ている。これは、グループでのワークショップ形式で、KJ 法や SWOT 分析を取り入れた結果、授業に参加したという意識が高く自己評価が高くなったものと思われる。参加したことを修得したこととして評価していると思われる。	目標に対して、何を理解し、何ができるようになったかを自己評価できるように認識させていく。

森定	障害児保育 GP と到達目標の送還では「障害児の特徴について理解し、その対応方法を身につける。」という項目において中程度の相関が示されが「障害児と周囲の子どもが共に成長していける指導法を身につける」では、無の相関であった。	障害児に対する配慮は、健常児にも有益であるというユニバーサルデザインの内容についてさらに多く取り上げていく必要がある
今西	幼児体育 I ・ GP と自己評価の相関係数は 2 クラスで傾向が違っている。GP と自己評価の相関から「逆」が多く、成績と学生の自己評価に乖離があることが分かった。一方のクラスにおいては、「中」が多い結果となった。	仲間と協力をして取り組んでいこうとする意識が高いので、こちらからの一方的な実践授業ではなく、各グループで考察など取り組めるように行っていきたい。
桑原	・ GP と自己評価の相関は全項目「中」程度となっているが、「子どもの最善の利益を尊重する視点を持つことができる」の項目が低めであった。また、GP の低い学生が自己評価を高くつけている傾向もみられる。授業内容上、制度や法律等、多くの情報を覚える必要があるが、それが目的の理解まで繋がっていないと考えられる。 ・ GP と GPA の相関は比較的高い傾向で、評価結果の妥当性があると考えられる。	到達目標と授業内容を紐づけられるよう、事例などのエピソードを交え、解説していく。
大道	「幼児理解と教育相談支援」 ・ GP と自己評価の相関は 2 クラスで傾向が異なっている。学修成果全体の結果が「逆から中」の評価だったため、成績と学生の自己評価に乖離があることがわかった。特に GP が低い学生が自己評価を高くつける傾向が見られた。	本授業では、小テストと期末試験の評価が授業評価の大半を占めるため、期末試験で成績を落とした学生の GP が下がる傾向が見られた。したがって、小テストや期末試験以外の部分での評価を増やすことや期末試験の内容を見直す必要があると今回

	・ GP と GPA の分布に関して、ばらつきはあるものの、中程度の妥当性が見られた。	の分析でわかった。
渡辺	「教育課程論」 マイナスの相関が確認された。この教科の評価はテスト等による絶対評価なので、学生の自己評価と合致しにくい傾向にあることは予想できる。	学生の頑張りが反映できるようなテスト内容に工夫することが求められる。
石川	保健体育講義 「自分の健康を保つための運動を計画的に実践する方法を身につける」という項目に関する GP と自己評価の相関が低い。授業での知識定着と実生活での活用の仕方を実践的に学ぶ時間が必要である。	学んだ内容を、どのように活用するのか実践的な計画を立てる時間を、もう少し確保する。
金谷	「保育のこころ」 GP と自己評価の相関は全体的に低い傾向を示している。特に「子ども一人ひとりを理解し、愛情を持って関わることができる」の到達目標において大きく乖離が見られた結果となった。幼稚園の見学や現場体験を通して、保育の実際に触れる機会が多くあることから、学生は充足感を得たことがこの結果に反映されていると思われる。	学生の前向きな姿勢を大切にしつつ、評価観点をさらに明確に示したり、現場で指導を受けたことを全員に共有する時間を持つなどし、乖離を小さくしていけるよう努めたい。
仲谷	パーカッション I クラスによって GP と自己評価の相関はクラスで差異が出た。1 クラスは「逆」、もう 1 クラスは「高」の結果が出た。自己評価が低い学生は音楽経験が少なく、自分がどこまで出来ているのかが、わかっていないことも原因していると考えられる。	授業における到達目標や基準をはっきりと示し、実技における達成度・評価基準を提示する必要があるとわかった。

氏名	授業評価で示された課題 (対象科目、授業内容・方法の妥当性)	改善計画
芝田	保育内容演習(自然) ・授業評価の結果では特に大きく評価が低い項目は無かった。 ・一方のクラスの評価結果が他方に比べ、0.5ポイント程度低く、クラス間で評価結果の偏りが目立つ。 ・「授業に興味や関心が持てた」「授業はためになる内容だった」への回答と相関が高いのは「授業の目標が分かりやすく示されていた」 ・「授業はためになる内容だった」への回答と相関が高いのは「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。」「授業に集中できる環境、雰囲気を整っていた。」 ・「授業に興味や関心が持てた」への評価が低い学生は、「授業の目標が分かりやすく示されていた」「教員の言葉は、聞き取りやすかった。」「学生の理解に合わせて授業が進められていた。」「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。」「授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた。」への評価が低い ・「授業はためになる内容だった」への評価が低い学生は、「授業の目標が分かりやすく示されていた。」「教員の言葉は、聞き取りやすかった」「学生の理解に合わせて授業が進められていた。」「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。」「授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた。」への評価が低い	・同日に同じ内容の授業を実施していたが、1回目よりも2回目の方が上手く内容を伝えられていた実感がある。このことが、クラス間で授業評価結果に偏りが生じた要因の一つかもしれない。事前の授業準備をさらに充実させ、1回目の時から学生に満足感を与えられる授業を目指す。 ・授業分析より「わかりやすい目標設定」「教材」「聞き取りやすい言葉」「集中できる環境」が学生の学習意欲や満足度を高めるのに効果的であるということがわかった。改善策として、以下の内容を来年度の授業内にて実現したい。 ・各回の目標を明示し、学生が見通しをもって学習に当たれるようにする。 ・パワーポイント資料において文字を大きく、情報量は必要最低限に、を心がけて作成する。 ・まとめ資料の内容を精査し、重要事項を簡潔にまとめやすくする。 ・重要なことはゆっくりと話すことを心がけるとともに、私語に対しては適宜注意する。

生活文化学科生活文化専攻		
勝本 (真砂)	情報処理演習(生文) 「この授業は興味や関心が持てた」に対して「どちらともいえない」と回答した学生の 67%が「学生の理解に合わせて授業が進められていた。」に対しても「どちらともいえない」と回答しており、「この授業は興味や関心が持てた」に対して、「とても評価できる」と回答した学生の 85%が「学生の理解に合わせて授業が進められていた」に対して「強くそう思う」と回答していた。 授業内容への興味関心度が理解度や満足度と大いに相関があることが分かった。	学生の興味関心をひきつける教材が学生の授業に対する満足度と大きくかかわっていることがあらためて認識できたので、より身近で興味を引く教材に改良しながら授業に臨む必要がある。
伊藤	日本国憲法 ・総じて、学生の評価は高かった。「憲法について固いイメージを持っていたけれど、わかりやすい、面白い授業で楽しく受けれたのがすごく良かった」「教科書に載っていない部分も分かりやすく資料付きで説明してくれたので分かりやすかった」「どの授業より一番ためになると思ったし、面白かった。先生の声が聞き取りやすく話も分かりやすく、眠くなることがなかった。この授業を取ってよかったと思う」「難しく理解できないかと不安だったが、分かりやすい解説で理解できたと思うので、とてもよかった」などの感想に励まされた。 ・一方で「教科書はあまり使わなかったから、来年からは先生がコピーしたものを印刷する形ではどうかと思う」という指摘があったので、教科書の利用法に工夫が必要だと感じた。	教科書とパワーポイントを併用したが、結果的にパワーポイントで重点的な説明をしたため、教科書を使っているという感覚を学生が持てなかったと思われる。次年度は、教科書の必要箇所を学生に読ませたり、アンダーラインを引かせたり、使用頻度を上げることを意識したい。
中西 (真砂)	「コンピュータ科学演習」 ・授業評価アンケートはいずれの項目も全体平均より高く、バランスのよい評価が得られてい	・時間を守ること、学生の理解に合わせて授業をすること、質問に適切に対応することなど、授業の進め方については高

	た。 ・「急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった」と「授業の開始時間や終了時間は守られていた」の相関係数は 0.884 であり、高い相関を示した。 ・「学生の理解に合わせて授業が進められていた」と「学生の質問に対して適切に対応していた」の相関係数は 0.824 であり、高い相関を示した。 ・これらの相関が高いことが、「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた」の相関係数が高い値(0.912)につながっていると考えられる。	い評価が得られているので、今後もこのまま進めていくのがよいと考える。
山本 (真砂)	「インターンシップ I」 ・授業評価アンケートは概ね高評価となっている。 ・目立って低い評価項目は見当たらず、全体としてバランスが良い。 ・「授業の内容について」の質問では、「この授業は興味や関心が持てた」が若干低めになっている。 ・自由記述のところで「資料やプリントがあり理解しやすかった」、「話がわかりやすかった」という声がある一方で、「内容が難しかった」、「難しいところもあったがいろいろ学べた」など、難しく感じていた学生がいた。 ・質問 3 (8. 学生の理解に合わせて授業が進められていた。)- 質問 3 (9. 教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。): 相関係数 = + 0.95 となっており、高い相関があった。 ・「この授業は興味や関心が持てた」という質問	夏のインターンシップに間に合わせるために、スケジュールを意識しつつ黙々と進めなければならないような内容もあり、興味を持ちにくかったのではないかと思われる。 身近な話題を取り入れながら、長期的視点を持ちつつ楽しみながら参加できる要素を取り入れたい。

	に対し「3:どちらともいえない」と回答した人の80%が質問2(5. この授業は自分のためになる内容だった。)に「4:そう思う」と回答とあり、自分にとって大切な授業であるという認識がありつつ興味を持つまでには至らなかったという傾向がうかがえる。	
雨夜	自由記述回答において「スライドや細かい具体例があったので、難しいお金のやり取りを簡単に理解する事ができました」「プリントや教科書を使い効率的に勉強ができました」等がみられた。	教科書のみ使用する形態では一方通行になりやすいことから、スライドやプリントを適宜導入することにより、集中力を維持しながら授業内容の習得をより効率的に図ることができる。
東口	家政学概論 授業評価アンケートでは比較的評価が高い結果が出ていた。質問4「授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた」の項目に関する相関係数が他と比べてやや低くなっていた。	スライドを用いながら、プリントの重要箇所を穴埋めする方法が好評であった。授業内で裁縫も数回取り入れたことで学生の動きが出て意欲的に取り組んでいた様である。しかし、質問4に関わる相関係数から、普段の生活に焦点をあて、より身近で新鮮に感じられる事象を用いた課題を題材にした授業展開が求められているように感じた。
生活文化学科食物栄養専攻		
西出	食品衛生学 授業の「計画、内容、教え方、成果」についての傾向分析結果では、学生評価内容として「5:強くそう思う、4:そう思う」との2種類の結果に集約されている。一見、高評価として捉えられるが、小テストなどの確認試験の実施内容を以前実施していた記述式から三択式方法に授業内容を変更したことによるものと分析しているので、講義方法の改善が必要と考える。	授業の評価を受け、改善する内容として、講義終了後に毎回実施している確認試験の内容を学生の実力向上を図るためとして、講義初回から講義末にかけて確認試験実施方法を見直し、択一問題から記述式や論実式などを含めた問題内容に変更し、学生達の知識向上に繋がるように努めたい。

岡井	臨床栄養学各論 授業評価については、特に大きく評価が低い項目は無かった。 自由記載では、「1年で習った内容を振り返りながら授業を受けることができた。」「わからないところを、丁寧に教えていただいたのでよかった。自分自身とても興味がある分野であるが内容をきちんと整理できていないため、今後もっと復習を積み重ねていこうと強く思いました。」「わかりやすかった」「分からない所はすぐに教えてくれた」「実習を通して、様々な体験ができたのでとても身についたと感じた。」「詳しく学ぶことができよかった。」「配布プリントが丁寧でわかりやすかったです。」「面白かった」など、授業内容や方法について妥当性があると思われる回答があった。学生の意欲が伺われる回答とは別に「卒業必須だから履修してるのに、栄養士になるからと栄養士ワードをいっぱい言われしんどかった。」「もう少し復習もかねて教えて欲しいなと思う時があった」等があった。	授業評価から、受講目標や授業内容への興味や意欲の違う学生が、同じ授業で興味を持てる構成が必要と考える。毎回の授業内容は、基礎を確認しながら、応用編は自由課題を設け個別対応で学生の知識や意欲の向上に繋げて行けるよう検討する。
森岡	栄養教育論 I 授業評価について、「この授業は興味関心が持てた」「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」以外は、概ね高い評価であった。 相関係数が 0.70 以上の項目は、「授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた」と「学生の質問に対して適切に対応していた」0.749、「学生の理解に合わせて授業が進められていた」と「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役立った」0.738、「授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた」と「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」0.712 であった。	大半の学生が、目標が明確で、授業の進行速度がちょうどよいと回答していたが、教科書のどの範囲か分からない時があるという自由記載があったので、教科書のページ数をパワーポイントに記載するようにする。 興味、関心がないと意欲的に取り組むことができていないことが判明し、学んでいる内容と将来の関わりについて考える機会が高くなると、授業への興味関心が高くなる傾向にあると言われているので、将来の関わりについて具体的に提示するように授業内容を検討する。

	自由記載 「ICTに写された資料をclassroomにも送信されていたので、手元で見ることができ、家に帰っても見返すことができたのが良かった」「PDF など参考資料を送ってくださったので理解しやすかった」「とても静かで集中できる環境で受けることが出来た」「先生の話も聞きやすく、プロジェクターを進める速さも私自身ちょうど良い速さでした。また授業開始と終わりにはちゃんとした礼儀を教えてもらい将来就職する時役立つことをしてくれてとても良かった」「授業のはじめに今日の目標が示されていて、何を学ぶのかが分かって、授業を理解しやすかった。」 傾向分析について、 「この授業は興味や関心が持てた。」でどちらともいえないと回答した 62%が「私はこの授業に意欲的に取り組んだ。」でどちらともいえないと回答していた。 「学生の理解に合わせて授業が進められていた。」でどちらともいえないと回答した 50%が「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。」でどちらともいえないと回答していた。 自由記載 「PowerPoint を進めていく上で教科書のどの範囲をやっているかわからない部分があった。」 「教科書のページがたまにどこをやっているのかわからなくなることがあった」	
成田	「調理学」 ・全体的に授業評価が高かった。 ・質問項目2「この授業は興味や関心がもてた」する質問に対して、最も否定的な回答をしていた「どちらともいえない」と回答した学生の全員	・本授業は、科学の内容を含むため、学習内容に苦手意識をもつ学生がいることが予想される。こうした学生に対応するため、授業の内容が自分の生活や将来の職業生活の役に立つという展望がもて

	が、質問3(7. 教員の言葉は、聞き取りやすかった。)に「4:そう思う」、質問 3 (9. 教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。)に「4:そう思う」と回答、質問 3 (8. 学生の理解に合わせて授業が進められていた。)に「4:そう思う」、質問 4 (13. この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。)に「4:そう思う」と回答しており、強い相関があった。しかし、質問2(5. この授業は自分のためになる内容だった。)に対しては、「3:どちらともいえない」と回答していた。 ・以上のことより、授業に関心が高くないと回答した学生は、授業のすすめかたやスライドの提示のしかたについて、高く評価していたが、そうした授業の内容をどうすれば役立てられるのか、という視点がもてていないことがわかった。	るようになるよう、事例を交えて、かみくだきながら、授業を進める必要がある。
野志	生化学 I 簡易分析より、母数が少ないので何とも言い難いが、「学生の質問に対して適切に対応していた」の項目に高評価をつけている受講し得でも「授業の環境」「関心の持てる授業」などの項目で低評価をつけている場合があるようであった。 概ね、肯定的な意見の評価では相関性などに目立った偏りはみられなかったと感じた。	恐らくであるが、そもそも当科目への苦手意識が強い受講生がかなりの数存在すると思われる。それは、全体的に肯定的な意見・評価が目立つなかで、本授業が難しかったという意見が一定数みられることから推定される。また、直接受講生と会話したときに本科目が嫌いだと断言する者の数が多いことから明らかである(本科目の内容が好き or 興味があると答えるものはいなかったと記憶している)。 本科目を学ぶことの意義や実際に役立つことを体感させることが大事だと思われる。 また、授業スピードを早く感じているものも一定数いるようであるので、授業内

		容の範囲をより絞り込む、または習熟度・理解度の高い受講生向けの特別講義を行い、授業時間ではより基礎範囲を重点的に行うことも良いのかもしれない。小テスト(少し難しめ)については肯定的な意見が目立ったと感じたため継続する。
堀江	食育実践演習 ・履修者が少ない中での分析であるが、「1. この授業はシラバスに示された授業内容に基づいて進められていた。」「4. この授業は興味や関心が持てた。」「5. この授業は自分のためになる内容だった。」「7. 教員の言葉は、聞き取りやすかった。」「8. 学生の理解に合わせて授業が進められていた。」「9. 教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。」「10. 授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた。」「13. この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。」の8項目で、「どちらともいえない」という回答が見られた。	・特に授業内容に関わる4,5番の項目について、学生の興味関心や自分のためになるといった感想を引き出せるよう、一層の工夫が必要であると思われた。実践の場やその準備の場を増やし経験を増やすことで、興味関心をよび、自分のためになる内容であったという感想につなげていきたい。また、これによって13番の授業の成果に関する項目の改善にもつなげていければと思う。最後に、教え方について、自由記述にも話す速さについて言及があったので、話し方のメリハリによって、重要事項を強調することを意識していきたい。
五木田	製菓理論 ・授業内容について、多くは興味をもって授業を受けていることはわかった。 ・『授業の計画』『授業の内容』『教員の教え方』で「強くそう思う」という結果が多くあったが、『教員の教え方』の部分において、「そう思う」が約3分の1ほどいた。 また、『授業の成果』についても「強く思う」もあるが、1/3程は「そう思う」や「どちらでもない」という意見があった。	授業前にスライドや配布資料の内容や字の大きさなど確認を再度よく行う。 授業の重要なポイント、伝えたい部分をピックアップして学生へ伝えそびれないようにする。 授業終わりに「今回のまとめ」という項目をいれ、復習できるような時間配分を考える。
若林	欠席	

保育科		
小笠原	保育原理 I 特に低い評価の項目は無かった。 自由記述からは、「授業内容は少し難しかったけれども分かりやすく楽しい授業であった。」「具体例を挙げながら説明してくれ分かりやすかった。」「声も聞き取りやすく、重要な所を板書しまとめてくれるので理解しやすかった。」「保育についての知識を得ることができた。配付資料や教科書等の教材もわかりやすく学習しやすかった。」「グループワークで皆と交流し、意見を共有できて嬉しかった。」「自分たちで考えて取り組める授業だった。」との意見があった。	学生のコメントからはクラス間の違いはそれほど見られなかった。数名の意見から、仲間と協力しながら課題に取り組むことに充実感を感じていることが窺えたので、今後もグループワーク等、学生が主体的に活動できる内容を取り入れ、満足感を得られる学生を増やしていきたい。 また、配布資料についても更に工夫を重ね、授業の理解向上に努めたい。
井澤		
小滝	基礎演習 情報処理演習室も利用し、Google クラウドを活用して課題を提示し、ドキュメントでの提出とした。各学生のドキュメントに個別にコメントしフィードバックを行った。また、You Tube 等の動画を活用し、理解を深めることに役立てた。「木のおうち」を活用し、実際に子供や親に触れることによって、保育や子育て支援について考えさせた。	授業評価で、保育の場で使う言葉や書き方を修得できたという感想があった。 次年度も、保育に関係する内容を取り入れるとともに、大学として基礎演習で必修として学ばせる内容を充実させたい。
森定		
今西	幼児体育 I ・2 クラスの相関関係の差が大きかった。授業は興味関心が持て、この授業に興味関心が持てたと評価する学生数がクラスの半分以上評価するクラスと、クラスの半分しか評価しないクラスとに分かれた。コメントを見ると、「子どもたちと	2クラスの相関関係の差が大きかった点を改善していきたい。しかし、コメントにおいては大差が見られなかった。全員が興味を持つことができるよう、授業内容を改善していく必要があると考える。

	やってみたい」や「遊びの引き出しが増えてよかった」などの自由記述があり、今後に活かしていってほしい。	
桑原	「子ども家庭福祉」 自由記述より 「法律など難しい範囲だったけど一つひとつ詳しく説明してくれて理解できた」「プリントが穴埋めでまとめられていて良かった」「今までの生活で何となく知っていたことが体制として理解できて面白かった」といった意見が多い反面、「難しかった」「もう少しゆっくり進んで欲しい」という意見もみられた。また、「授業中、テスト対策をしてくれたので勉強しやすかった」という意見も多数みられた。	科目学習へのモチベーションは学生個々により異なるため、授業への興味関心を得るためには、学生自身が実感できる身近なエピソードや、直近の課題である期末テストへの見通しを明確に示すことが有効と考えられる。また、穴埋めプリントについては、作業をすることにより授業参加の充実が図れていることが読み取れるため継続したい。ただし、記述スピードに学生差が見られるため、記述量の調整を図りたい。
大道	「幼児理解と教育相談支援」 ・全体評価が 4.2 以上が多く、高い評価をいただいたものの、1 クラスでは全学平均よりやや低く、もう一方のクラスでは全学平均よりやや高いという結果が見られた。両クラスともに全学平均より低いのが「授業の成果について」の項目であり、全学平均より 0.15 低い結果となった。 ・傾向分析の結果からは、「授業に興味関心が持てた」の項目に対して「どちらともいえない」と答えた学生の大半が「授業の目標が分かりやすく示されていた」に対して「どちらともいえない」と答えたため、目標がわからない場合は授業に対しての興味関心を示さないことがわかった。 ・自由記述からは「レジュメで見やすく分かりやすくまとめてくれていたり、グループワークで意見を共有できる時間をとったりと授業理解をしつかりできるところが良かった」などの意見があっ	・本授業では、同日に同じ内容の授業を実施している中で、学生からの評価が異なり、講師と学生との関係性が影響している可能性があることがうかがえる。授業中に私からの質問、クイズ、グループワークなどやりとりが多いやりとりが多いため、いきなり授業を始めるのではなく、アイスブレイク的な活動をいれた方がその後の活動に入りやすいと思った。 ・授業目標を授業開始時にスライドで提示しているものの、授業中のどの活動がどの目標なのかが明確ではなかったかもしれません。したがって、授業開始時の授業の目的の提示以外にも、まとめ部分の時に今日行ったことの振り返りを行うとより学生が授業で行ったことの理解が深められることができ、興味を示すきっかけになると感じた。

	たため、レジュメなどの資料を用意することやグループワークを入れることが学生の意欲ややる気や理解度につながったことがうかがえた。	・テキストや事例以外にも、授業内容と関連するニュース等の動画を見せ、話し合いを行うなどの工夫を行うと、より学生が学んでいることに対してイメージが付きやすくなり、興味や関心をもってもらいきっかけになると感じた。
渡辺	「教育課程論」 ノートをとるのが大変だったという声が多かった。	確かに板書の機会は大変多かったと思う。ノートだけではなく、プリント等ほかの教材も組み合わせて行っていく必要もあると感じた。
石川	保健体育講義 全体的に評価は高かった。自由記述では「楽しみながら保育士として必要な知識を身につけることが出来て良かったです」「人生において健康な体でいるためにすべきことをたくさん学ぶことができてた」「健康な体でいるためにすべきことをたくさん学ぶことができて良かった」「体の仕組みについて知れてよかった」などのコメントがあった。 次年度も、学生の興味があり、尚且つ実生活に活用できる知識を伝えたいと感じた。	自分自身の身体のことや、現場で役立つ情報について、特に興味を持つということが明確になった。 より実践的な内容を活用しやすい形で伝える必要性を感じた。
金谷	「保育実習指導ⅠA」 項目間で顕著な差は見られなかったが、クラス間でポイントに差が出ていることがやや気になった。クラスの雰囲気やクラス全体の授業への取り組み姿勢が、自己評価のポイントに大きく影響している。 本授業は、学生の実習体験の発表を多く取り入れた授業内容としており、それに対して「学びを共有できた」と回答した学生が多かった。	学生個々に合わせた指導や対応はもちろんだが、クラスによるポイント差を改善するために、クラス単位で指導方法を変えたり、工夫を凝らしたりしていく必要がある。
仲谷	パーカッションⅠ	さらに、充実していくためにシラバスを見

	授業評価での結果は「低い」はなく「高」評価であった。授業はためになるや、興味が持てたという評価が高いのは学生に合わせた内容の授業を提供できたのではないかと考えられた。	直し、授業の内容と実践を明確に提示しながら進めていきたいと考える。
--	---	-----------------------------------

Ⅲ. 授業の相互参観

1) 概要

実施期間：2022 年 11 月 28 日(月) ～12 月 23 日(金)

参加教員：専任の全教員（助手を含む）。非常勤教員は任意

対象科目：全授業科目

方法：全教員（助手を含む）が、最低 1 科目を選んで参観する。参観内容は所定の報告書にまとめて提出する。

2) 相互參觀報告書

記入者氏名： _____

所属：

科目名:	担当者:	先生	参観日:	年	月	日
【観点の参考項目】 ・ 学生の能動的学修を促す試み（アクティブラーニング） ・ ICT を活用した授業作り ・ ユニバーサルデザインを意識したわかりやすい授業づくり など 参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。						

生活文化学科 生活文化専攻

記入者氏名： 勝 本 泰 弘

科目名： 秘書実務Ⅱ	担当者： 雨夜 真規子 先生	参観日：2022 年 12 月 8 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 冤罪事件として、現在、東京高裁において差戻抗告審が係属している「袴田事件」について、事件概要、事件の経緯、冤罪の疑いが極めて強い事実が判明してきていること、現在の裁判状況について、そして、当人である袴田巖氏の現在の状況や彼を支え続けてきた姉の袴田秀子さんの生きざまをお話しいただいた。我々が生活していくうえで、様々な危機に直面した時の心得、姿勢について改めて考えさせられた授業であった。 当時の警察の不条理な捜査や社会情勢、偏見等についても考えさせられる授業であり、現在において、私たちが、よりよい社会生活を送る上でもいくつかの示唆を与えてくれるものであった。 また、学生に配られた資料は、概要、問題点がわかりやすいコンパクトな資料であり、事件概要や問題点を整理しやすいものであった。 学生の心に訴えかけ、学生が深く考えるという点において優れた授業展開であった。 学生の興味を引き、深く考えさせる授業において、教材の選定がいかに重要かを改めて認識しました。今後の自分の授業改善に生かしていきたいと考えます。		

記入者氏名： 中西 淳平

科目名： 人間関係論	担当者： 山本 先生	参観日：2022 年 11 月 29 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 ● 授業の最初に、初回から前回までの内容をざっくりと復習。特に、前回の内容は、他の回と比較して、少しだけ時間を長めに復習。 → 自分の授業では、復習の時間はすでに取り入れている。この参観授業の時間のバランスを参考にして、復習の時間を調整していきたい。 ● 授業の資料として、テキスト（市販の本）とワークシート（その本に付録）を使用。 ● テキストを読み進めて、重要な部分はテキストに下線を引かせる。 → 自分の授業では、自作プリントで授業を進めていて、重要な部分には下線を入れた状態のプリントを作成・配付している。 - そうではなく、重要な部分であってもわざと下線を入れず、授業時に学生に下線を引かせてもいいかもしれない。 ● テキストの内容にマッチしたワークシートを活用。		

→ 座学の授業では、授業内容の振り返り（復習プリント）を毎回活用している。 一方、演習の授業では、このようなワークシートの活用は取り入れていない。授業の振り返り・内容確認（復習）に役立つよう、ワークシートの導入を検討してもいいと思う。 ● 授業の後半は、カラータイプカードワーク（3人ずつチームになって、グループワーク）。 ➤ まず、カードワークの進め方の説明および独自ルールの説明。 ➤ カードワーク（グループワーク）の実施 ➤ 最後に、カードワークの結果の読み取り方の説明（タイプ診断、カラー解説）。 → このカードワーク（グループワーク）そのものは自分の授業には合わないもので、そのままの形で取り入れることはできない。 しかし、座学の授業でも演習の授業でも、グループワークの取り組みはあまりないので、学生相互に相談し合う形のグループワークを授業に組み込んでいけるように検討していきたい。
--

記入者氏名： 山本 桂子

科目名:Web プログラミング	担当者 中西淳平 先生	参観日:2022 年 12 月 5 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 【気づいた点】 ・PCの基本操作から小さなステップを踏んでの説明があり、苦手な学生にもわかりやすい。私自身も普段この授業は受けていないが、流れがよくわかり、ワークについていくことができた。 ・操作途中でチェックポイントの解説があり、ミスに気づきやすい。 ・配付資料とPC画面上の資料の両方使うことで、ワークに取り組みやすい。画面上では今どこに注目すべきかを逃すことなく見ることができ、後から内容を確認したいときは手元の資料を見ることができる。 ・助手の先生との連携が取れていて、学生が質問しやすい雰囲気がある。 【自分自身の授業改善】 授業でWEBサイトを示して説明をする時には、プロジェクターとスクリーンを使用している。後方の学生が見えにくいであろうときには、各自スマートフォンで確認してもらっている。PC上で操作方法を説明するときには多目的コンピュータ室のパソコンを使用するととてもわかりやすいと思うのだが、不勉強なため多目的コンピュータ室のパソコン操作ができず使いこなせていない。就職後のことを考えると、学生にはスマートフォンだけではなく、パソコンを使いこなせるようになってほしいと考えており、自分の授業でも多目的コンピュータ室の使用を検討した		

い。

また、配付資料と PC 画面上の資料を両方使うことで、講義がわかりやすく、自習もしやすいことを実感した。パワーポイントを使って授業を行う時には、パワーポイントの画面とは別のレジュメを配付し、単調にならないよう工夫をしているつもりであるが、時々学生がメモを取る前にパワーポイントのページを送ってしまっていることがある。手元に残しておいてもらいたい部分については、配付資料をうまく活用したい。

記入者氏名： 雨夜 真規子

科目名:健康管理概論	担当者: 森岡 美帆 先生	参観日:2022 年 12 月 23 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 授業の冒頭で、前回授業で習得した内容についての「確認テスト」を、google formを使って実施されていた。授業内容のインプット度合いを測り、また、学生に復習を促すには有効と思われる。また、授業の最後には、その日の授業について感じたこと等を学生に google classroom 上に入力させ、一応振り返りの時間をとっておられた点も、学生にその授業における自身の理解度を自覚させ、教員が学生の理解度を知る上では有益と思料する。 ペーパーベースの資料は配布せず、すべて google classroom 上でURL等を共有し、学生が各自のスマホで閲覧しながら授業を聞くスタイルがとられていた。たしかに、このスタイルは紙の節約につながり、学生の ICT スキルの向上には一定程度効果的かと思われるものの、学生はスマホで資料を閲覧しながら、同時に各自で直筆でノートをとっている現状」に鑑みれば、資料の情報と学生による書き込み情報を、あえて紙の資料を使うことで一元化するほうが、より効率的な学習につながるように思われた。 一方、アクティブラーニングという観点からは、学生たちは顔を上げて教員のほうや前方のスライドを見る機会に実に乏しく、各学生が教員の誘導するままにスマホの画面を眺めている時間が大半であった。学生は前方のスライドに示された内容をそのままノートに書き写す作業はするものの、書くべき内容のボリュームは限定的で、手を動かして書き学ぶ時間は相対的にかなり少ない。また、教員より指定されたホームページを各自のスマホで検索する時間を都度とるために、教員を含め教室が沈黙に包まれている時間が多く、テンポ感が欠如していた。学生を指名して発言させる機会も皆無であった。そのため、教員から一方的な情報提供がひたすら行われ、双方向性に欠けていた。授業中に居眠りしている学生が多数いるにもかかわらず教員から一切注意もされない点は改善すべき課題だと感じた。おそらく、授業中に居眠りをしている、授業冒頭の確認テストには一応対応できるようになっているのではないと思われる。 適宜学生にも発言を求める授業運営が不可欠と感じた。また、ICT 機器を授業に取り入れることは十分検討に値するものの、その活用の方法にはおおいに工夫が必要で、それを怠ると授業		

で各々スマホを漫然と閲覧するのみで学習効果が見込めない点に注意が必要と思料する。

以上

記入者氏名： 東口 依未

科目名:秘書実務Ⅱ	担当者: 雨夜 先生	参観日:2022 年 12 月 8 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。		
授業が始まって、授業内容を説明していた。参観に入った授業が本来の授業内容とは異なり、異色な内容であった事も合うのだろうが、最初に授業について説明を入れることで授業の内容へ意識を向けさせ、意欲の向上につなげていた。		
視聴覚教材などを一切使わず、資料プリント 1 枚とそれ以外は終始教員の口頭説明で進める授業だった。教員の声のトーンや大きさが聞き取りやすく好感が持てた。		

記入者氏名： 真砂 みづほ

科目名:秘書実務Ⅱ	担当者: 雨夜先生	参観日:2022 年 12 月 15 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。		
・秘書実務による内容証明の郵送の仕方についての内容だった。授業だけではなく、実生活に取り入れられるような内容だった為、学生の卒業してからの実生活でも役立つのではないかと感じた。		
・講義だけではなく、学生に内容証明を作成させるなどして、関心を持たせるように行っていた。		
・テキストを使いながら、ネットの情報も取り入れ IT も活用されていた。		
・実生活でトラブルに巻き込まれた場合、内容証明を使用して問題解決できる方法の事例を挙げて説明されていたので分かりやすかった。		

生活文化学科 食物栄養専攻

記入者氏名： 西出 充徳

科目名:フードコーディネート	担当者: 五木田 祐里 先生	
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。		
この授業では、フードコーディネートの総仕上げとして、この授業で学んだ全ての内容を個々に活かして		
与えられた条件下で食の企画書を作成し、発表することとされていた。		

使用した教材は、パワーポイントや担当教員が自ら作成したイラスト媒体や小物を使用していた。担当教員の作成した媒体の完成度の高さに学生達は感銘し、喜んでいたので印象的でであった。学生達は、どの様に
して教員が創意工夫して媒体を仕上げたのかを熱心に質問していた。
この授業から学んだことは、講義であっても学生達が実物を手にしたり、見たりすることの大切さを学んだように感じられ、大変有意義な研修だった。

記入者氏名： 芝田 史仁

科目名:社会的養護 I	担当者: 桑原 先生	参観日:2022 年 12 月 10 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 参観の中で、授業改善のために参考になった点は以下の通りである。 ○ 学生の能動的学修を促す試み（アクティブラーニング）について ・ 穴埋め式のまとめプリントを作成していた。 ・ 生活上の習慣を取り上げたアンケートを実施し、アンケートの集計結果から浮かび上がった疑問から、本科の課題への理解を深め、学生の学習意欲を高める工夫がなされていた。 ・ 教員の実務経験を体験例として取り上げ、学生の関心を引きつけるようにしていた。 ・ 換気時間を利用して授業の合間に休憩時間を設け、集中力を高める配慮がなされていた。 ○ ICT を活用した授業作りについて ・ Google Classroom やフォームによるアンケート機能を活用し、携帯電話によって学生が入力した回答を集約して速やかにフィードバックを行う等、双方向型の授業を実践していた。 ・ PC の操作をワイヤレスで行えるよう、設定していた。 ○ ユニバーサルデザインを意識したわかりやすい授業づくりについて ・ 始めに前回の復習から入っていた。 ・ パワーポイントの視聴覚資料では文字を大きくしていた。 ・ ニュースや各家庭での生活習慣など、身近な話題を取り上げ、本科の学習内容を分かりやすく説明していた。		

記入者氏名： 岡井 明美

科目名:生活科学	担当者:堀江 大輔 先生	参観日:2022 年 12 月 23 日
資料について、科目別に学生の到達度に合わせて選べるように、問題を複数作成されているのがとても良いと感じました。		

学生は自分の到達度に合わせ、課題を選び問題を解いているのが印象的でした。
課題についての考え方や解き方についても、全体での説明に加え、個別に対応されていたので学生にとって効果的な授業方法かと感じました。

記入者氏名：森岡美帆

科目名：生活科学	担当者：堀江大輔 先生	参観日：2022 年 12 月 23 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 ・ 学生の進捗状況に合わせて、プリントを配布し、机間巡回を行って個別対応を実施していた。		

記入者氏名：野志 昌弘

科目名：子どもの健康と発育	担当者：堀江 大輔 先生	参観日：2022 年 12 月 20 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 参観した授業は、最初に授業内容に応じた項目（問、記述式）が書かれたプリントを配布し、受講生は講義を聞き取りながら、あるいは講義の最後（節？）で設けられた時間に要点をまとめて書きこむ形式で進められた。受講生は、教科書等の手持ち資料は持参していなかった。講義は、スライドを用いて進行した。なお、この授業の履修生は 2 名と極少数であった。 多数の受講生がいる授業でも通じることかは判断しかねるが、参考書や文字が細かすぎて見えないスライドを除き配布資料等を用いずにスライドのみで説明進行する形式は、講師の説明内容に受講生を集中させるという意味合いでは効果があることを確認できた。また、確実に理解させたいポイントを記述式で提示することは授業参加者の理解を促すことに繋がると見て取れた。ただし、この方法を授業に取り入れる場合には、受講生各人の理解と指導者が理解してほしかった内容に解離が生じているかを何かしらの方法で確認しないことには、教授する内容や範囲をある程度控って授業を進行しているように見て取れたので（恐らく、学習範囲を広げすぎると講義内容を書き切れない受講生が多発する）、習熟内容が予定よりも大きく減少するリスクがあると感じ取れた。当該プリントは、次回出席時までに提出する課題等の形に変えて、自分の授業にも取り入れることが可能であると考えた。 また、教科書をあえて見せず、本には無い最新の知見等を指導内容に盛り込んでいる様に見て取れた。これは、今学習している内容の（基盤としての）必要性や必然性を捉えさせることには効果的であると感じた。ただし、それに至る根幹となる基礎部分ですら理解できない受講生がいた場合には、そのフォローを授業中で行うか課題としてクリアさせるかを考慮しなければならないと理解した。このように感じた理由としては、今回の受講生 2 名は、それぞれ理解の深度に大きな差があることがプリントの記述内容から明らかであったことである。昨今、自分の授業構成		

における悩みである、どの理解度の層にターゲットを絞った授業展開にするかという問題における解のヒントとして、自己学習で至りにくい深度への理解の促進拡張と基礎部分を振り返るための余裕を一つの授業で両立することの重要性を再認識できた。やはり、多少の手間をかけようとも授業時間外の有効活用、数値だけで見る五段階評価ではない受講生の生の意見による理解度合いの把握が重要であると見て取れた。また、記述式による課題提出は、授業内容の理解度を確かめるために非常に有用なツールであると感じられた。しかし、別の問題として内容如何の以前の問題として、内容の通った論理的な文章を展開できない受講生が目立つことが他の授業（自身の担当科目含む）で確認できていたため、その点の改善も考えて評価、授業展開、別課題の作成をしていかなければならないとも考えられる。

記入者氏名： 成田 仁美

科目名:情報科学	担当者:中西淳平 先生	参観日:令和4年 12 月 22 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 今回、参観させていただいた授業は、生活文化専攻の専門教育科目群に位置付けられている情報科学の、第 12 回「中央処理装置と記憶装置の性能計算」であった。 授業のはじめに、3 枚のワークシートが学生に配布された。そのうちの 2 枚が、中央処理装置と記憶装置の性能計算の解説と練習問題が掲載されている、授業の内容を示すものであった。これらは、授業後に内容をふりかえることのできる構成となっていて、理解の定着を助けるアイテムとなっている。そして、最後の 1 枚は、授業の理解度をはかることのできる練習問題が掲載されているもので、期末テストの学習に役立つアイテムとなっている。このように、授業中だけでなく、それ以外の時間でも自主学習に活用できるように構成されたワークシートが準備されていた。 今回参観させていただいた授業は、量的な理解が求められる内容であったため、一定数いる数学を苦手とする学生に配慮されながら教授されていたことも参考になった。たとえば、専門用語をわかりやすい例えで示されたり、単位換算のコツをわかりやすく示したり、ノートをとるための時間を確保したりといった配慮がなされていた。 今回、相互参観させていただいたことで、ワークシートの構成の工夫や、その分野を苦手とする学生への配慮の工夫を学ぶことができたので、今後の授業に役立てていきたい。		

記入者氏名： 堀江 大輔

科目名:臨床栄養学実習Ⅱ	担当者:岡井 明美 先生	参観日:2022 年 12 月 22 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 授業は多目的コンピュータ室で行われ、それまでに班ごとに立てた献立について、栄養価計算		

や発注書などの書類を作成する実習を行っていた。教員より書式が入力されたエクセルファイルが渡され、そこにそれぞれがデータを入力し、あるいは紙媒体に記入して提出物を作成する形で行われていた。

栄養士業務において、コンピュータを用いて（特にエクセルのような表計算ソフト）を利用出来ることは重要で、実際に自分で入力させることで実務に直接的に関わる技能を習得できることを、教員の説明や実際にやっている様子を見て感じる事が出来た。自身の授業でも、直接的に技能を付ける意味で、コンピュータを使った授業を増やしていこうと思った。

また、課題の中で、食品成分表による栄養価計算値と糖尿病交換表によるものを、それぞれ計算させ、その違いを比較させていた。学生の中に数字だけを見て理解することを不得手とするものも見られるが、この方法は、そのような学生にも直接的に理解を進めることが出来ると感じられた。特に自分たちの立てた献立に即した数値であり、年明けにはその実習が用意されているということなので、より直接的にその理解を出来るであろうと考えられる。私も今後、このように学生自身が直接考えたあるいは取り扱う物を授業で取り扱うことを増やし、直接的な理解につなげていきたいと思った。

今回の参観を通じて、コンピュータや学生自身が考えたあるいは取り扱うものを利用した授業を増やして行きたいと感じた。こうした方法で、より直接的な学生の理解が進むようにしていきたい。

記入者氏名： 五木田 祐里

科目名:食品学Ⅱ	担当者: 西出充徳 先生	参観日:2022 年 12 月 15 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 ・視野が全体的に広く、学生の色々な反応を見逃さない。 ・一人の質問を全員に共有する。同じようなところで躓いている学生がいるかもしれないとのことで。 ・パワーポイントの使用。アニメーションや色彩を多用に使用し、飽きさせない。 目を向けさせる。 ・パソコンのみで教員は動かないというわけではなく、教員も動くことで学生に対して緊張感（質問されるのではないかという）を持たせているのではないかと思う。 ・小テストで今回の授業の振り返りをさせる。今後の勉強にも活かせる。		

記入者氏名： 若林 一花

科目名:生活科学	担当者: 堀江 大輔先生	参観日:2022 年 12 月 9 日
----------	--------------	---------------------

参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。

- ・パワーポイントを使用していた。その資料は、記号や表、文字などは色分けされて、学生に伝わりやすい視覚的な工夫がされていた。
- ・受講生が少数の科目であるため、学生の理解度や達成度などの個人差が比較的把握しやすいと感じた。

課題として問題用紙が配布され、個人で取り組みながら授業が進められていた。問題を解いた学生は、正解すると次のステップに進め、間にパワーポイントを用いて振り返りや解説を丁寧にされていた。また、問題を解いた学生が、わからない学生に教えあう時間も設けており、学生同士で課題に取り組むことで、より理解が深まり、自主的な学びにつながるのではないかと感じた。学生が問題に取り組んでいる間は、教員は一人ひとりの進み具合を確認するために教室内を巡回しながら、学生個人の状況に合わせての解説がされていた。また、課題に取り組みにくい学生に対しての配慮がされていた。受講生が少数で、学生個人の理解度が把握しやすい科目は、個人差に応じた資料づくりや授業の進め方が難しく、生活科学のような基礎教養科目の場合には、特に学生個人の学力に合わせた指導が必要であり、基礎科目と応用科目の連携が重要であると感じた参観であった。

保育科

記入者氏名： 小笠原 眞弓

科目名: ボランティア論	担当者: 大道えりつ先生	参観日: 2022 年 12 月 9 日
保育科1年生とともに、長年にわたり本学の実習指導や卒業生の育成に携わってくれている愛徳医療福祉センターの巽大輔氏による「施設における保育士の役割について」の講話を拝聴した。 まず、愛徳医療福祉センターが行っている様々な支援サービスについて説明がなされたあと、「障害と保育について」をテーマに、未就学児の保育の様子が映像で紹介された。朝の会・運動遊び・音楽遊び・絵本の読み聞かせ・野菜の栽培と、デイリープログラムに沿って活動する保育士と子どもの姿が映し出され、それに対して巽氏から一人ひとりの子どもの障害の特徴、その子に合わせた保育士の対応や配慮について説明がなされ、とても分かりやすかった。 後半は、実際に ICT を保育場面や療育に活用されていることが紹介された。アプリを利用して、子ども達が遊びの中で生活習慣を身に付ける。障害やコロナ禍のために体験できないことを画面の中では自由に実現するなど、大変魅力的で効果的な方法を示してくれた。また、この演出に学生も参加し、映像の中で愉快地ダンスを踊り、色塗りをした蝶々がその場で立体化し舞いだすなど、学生達も感動しながら授業に参加した。		

最後に巽氏は、子ども達の支援についての要点をまとめられた。子どもの背景や環境を知ること。施設が子どもらの家庭であることを理解し母親のような家庭的な雰囲気をもつこと。そうしながらも専門性を生かした支援を行うこと。その子の出来ることに目を向けて出来ることを増やすこと等。そして、常に子どもの目線に立って笑顔で接するやさしい先生であってほしいと、障害を持つ子どもだけでなく健常児に対しても大切なことを教えて頂いた。

以上、授業の流れにメリハリがあり、学生の能動的な活動の場面もあったため、学生達は集中を切らすことなく授業に取り組んでいた。また、授業の内容が保育実習を一ヶ月後控えた保育学生にとっては大変タイムリーで有意義な授業であると感じた。

本授業を通して ICT を活用するメリットを確認することができ、大変参考になった。

記入者氏名： 小滝 正孝

科目名:保育内容演習(表現)	担当者:井澤正憲 先生	参観日:2022 年 12 月 5 日
・ 前回の授業の振り返りを行うにあたって、写メで記録を取らせていた。実技も授業内容に取り入れられることが多い科目であり、記録に要する時間短縮となるとともに、作った作品も含めて視覚的に振り返りやすい仕組みであった。また、プリントに書き込むことで整理をさせており、確かな定着を促していた。 ・ フレーベルの教育理念を紹介し、子供の側に立って、学生個人の意見を書かせており、幼児教育の理論を実践に生かしているものであった。 ・ 昔の遊びと場所、遊び方を書かせ、昭和 30 年代から子どもの遊びがどのような変化を遂げたかを考えさせる授業であった。また、こうした変化を踏まえて、60 年後はどうなっているかと考えさせていた。過去から現在を見渡すことでものの見方の視点を捉えさせ、それをもとに現在から未来を予想させるという学修方法は、考え方をトレーニングする非常に能動的な学修となっていた。 ・ グループで作品作りに取り組ませる際、グループにより人数の偏り等が出ていないか配慮されていた。 ・ 月別の行事で壁面装飾を作る際、まず個人で考える時間を取り、グループと全体でアイデアを共有させていた。 ・ 作業が入ると学生は騒ぎがちであるが、全体をよくグリップされており、学生が戸惑いそうなところでアドバイスを与えていた。		

記入者氏名： 井澤正憲

科目名: 子どもの自然遊び	担当者: 芝田先生	参観日: 2022 年 12 月 20 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 グループ別で考えて来た「あそび」の発表日・講評日であった。 先生役と生徒役に分かれてゲームの説明、指導、生徒役からの質問への対応、遊びを盛り上げるための工夫など学生間でのやり取りが非常にスムーズだった。これは、授業や現場で経験してきた事を学生間で共有できるいい機会であるように思えた。 各グループ発表の後、見学している学生からの意見や先生による講評の方法も参考になった。 描画・造形の授業では今まで、作品の展示と全体への講評のみであったが、これからは学生自身に制作意図や作品について皆の前で言葉にする機会を設けたいと考えた。 改めて作品としての結果ではなく、その工程で何を感じ得たか、学生同士話し合える場の重要性をこの授業を通して考えさせられた。		

記入者氏名： 森定 美也子

科目名:	担当者: 石川 先生	参観日: 22年12月 19 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 バスケットボールを行うことが目的の授業であるが、最初にストレッチとして、時期的に関心の高いクリスマスソングにあわせて、楽しく体を動かすことができるよう工夫されていた。言葉による指示ではなく、教員のモデルとなる動きをよく観察して、自分の体を能動的に動かし、コントロールすることがテーマとなっている。 その後、バスケットボールを使ってリレーゲームを行い、少しずつボールを用いての動きに入っていく。 途中、給水タイムをとって、前回の復習の動きとして、ペアでゴール前の練習をおこなう。その上で、今回の授業で学ぶ動きは、3人で、2人がパス交換し、1人は妨害するが、妨害をかいくぐってシュートをする練習を行う。最後に「押さない」等のルールを確認した上で、学んだ動きを確認する試合を行った。 学生が能動的に楽しんで参加できる授業であること、スモールステップが計画的に設定されて学べる形になっている点が参考になった。		

記入者氏名： 今西 香寿

科目名: 保育内容総論	担当者: 渡辺 先生	参観日: 2022 年 12 月 14 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。		

- ・前回の授業の復習として、プリントを作成し、学生自身が復習をすることができるようにしていた。また、その解答を何人かの学生を指名し、ホワイトボードに解答を書かせていた。誰が指名されるか分からないので、必ず復習プリントに取り組む形となる。
- ・授業をより詳しくするために、データをパワーポイントで示し、実際の状況が把握しやすいようにしていた。

記入者氏名： 桑原 徹也

科目名：ボランティア論	担当者： 大道 先生	参観日：2022 年 12 月 16 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 当該授業は地域でのボランティア活動を通じ、社会参加の意義等を学ぶ体験型の授業である。しかし、新型コロナの影響により、ボランティア活動に制限がかかるなか、代替する形で企画されたものが今回の授業であった。授業では、障害児保育現場の職員を招き、現場で行われる支援の実際や利用者の生活の様子を紹介された。 講師には県内にある障害児入所施設の課長と本学卒業生の保育士を招き実施された。授業冒頭にプロジェクターで講師の短大在学時の写真や動画などを映し出し、ブレイクダウンが行われた。これにより、学生の緊張も解け、その後の授業に積極性がみられた。講義内容では、療育現場で実際使われている ICT 機器、特にスマホや iPad で手軽に活用できるアプリが紹介され、授業内に学生が体験する場面も見られた。また、現場の療育の様子が VTR で映され、先に紹介されたアプリを使った支援や従来からある自助具や補助具といった器具、手製の個々の障害に応じた支援用具など、ローテクとハイテクのハイブリッドによる保育現場が紹介された。VTR を使うことで実際の子どもの表情や反応が見えるため、学生は興味深く見入っていた。ICT 活用と聞くと、学生にとって難しさや距離を感じるように思えるが、今回の授業のように実際授業の中で体験することにより学生にとって身近なものとなっていくと思われる。 また、外部講師による授業は学生にとって新鮮さがあるとともに現場の実際を知ることのできる機会となる。特に普段関わる機会が少ない障害を抱えた人の生活の様子や障害理解について今回の授業を通し学べたのではないと思う。私の担当する授業では理論系に偏りがちであるが、その理論とリンクさせた現場の実際を今回の授業を参考に何らかの形で学生に紹介し、より充実した学びが提供できることを目指していきたい。		

記入者氏名： 渡辺 直人

科目名：造形表現	担当者：井澤先生	参観日：2022 年 12 月 20 日
----------	----------	----------------------

参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。

今回、井澤先生の造形表現の授業を参観させていただいた。率直な感想として、学生がのびのびと、そして能動的に活動をしていたと感じた。今回は 12 回目と、授業の終盤に差し掛かっており、作品も少しずつ出来上がってきている段階であった。授業は少人数であった。

この授業は、自身で課題を設定し、その製作に取り組む授業のようである。学生一人一人が、自身が設定した課題に取り組む授業であり、ジオラマを製作している学生もいれば、模型のようなものを粘土で製作している学生もいた。井澤先生は一律に学ぶ一斉授業をするのではなく、個々に対して適宜にアドバイスをする役割を担っていた。

一人ひとりがそれぞれ設定した課題に取り組むということで、やらされているという感覚もみられず、とても集中して取り組んでいた。学生を観察していると、製作には何が必要か、課題を達成するためにはどのような手順を追えばいいか等を自分自身で考えていた。また、行き詰ったときには井澤先生がアドバイスをする場面が何度か見られた。

この授業を通して、学生が自己選択、そして自己決定すれば、やらされているという感覚にならず、自分から意欲的に取り組むことを学んだ。私の授業にも活かしていきたい。

記入者氏名： 大道 えりつ

科目名:特別支援教育	担当者: 森定 美也子 先生	参観日:2022 年 11 月 29 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。		
講義、テキスト、グループワーク、事例検討などを授業に取り入れているが、集中力が続かない学生がいるため、集中して取り組める授業・環境づくりという視点で今回の授業参観を行った。		
・ 学生が集中して取り組める授業づくり		
①書く・聞く・見る、をバランスよく取り入れている		
15 分間隔で活動を変え、学生が集中して取り組めるような授業設計を行っている。		
(15 分小テスト、15 分先生が評価シートに沿って読んで項目に○を付ける+15 分パワーポイントに記載し		
ている内容をノートに書くを 4 回、動画を見る、テキストに下線を引く)		
②動画、テキスト、プリントなど様々な教材を使用している		
口頭で説明しづらい実践部分は学生に動画を見てもらい、イメージしやすい学習を取り入れ		

ている。また、

テキストでは事例に対して、解説部分をテキスト読みながら下線を引くように学生に声掛けをしていた。

- ・ユニバーサルデザインを意識したわかりやすい授業づくり

①パワーポイントがシンプルでわかりやすい

大事な部分を箇条書きでまとめているため、講義の重要なポイントが理解しやすく、ノートが取りやすそう

だった。

②見通しがあって、次行うことがわかりやすい

「〇〇終わったら次は△△をするので、プリント□番を準備しておいてください」など次行うことを口頭で伝

えられていたため、次に活動にスムーズに進むことができていた。

上記の気づきを踏まえて、話しを聞きながら書く・板書をしながら書く等書く作業を取り入れたと思いました。また、ユニバーサルデザインを意識し、学生が見通しを持てるように「〇〇の活動は 10 分、△△は 15 分」等見通しを持てるように声掛けや視覚提示を行いたいと思います。

記入者氏名： 金谷有希子

科目名: ボランティア論	担当者: 大道先生	参観日: 2022 年 12 月 16 日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。		
ゲストティーチャーとして、愛徳医療福祉センター病棟支援課の巽大輔先生と同センターに勤務する本学保育科卒業生を招き、「障害者・児福祉施設の地域での役割や利用者との関わり方について」講演くださった授業を参観した。		
・パワーポイント、動画、タブレットやスマートフォンを適宜用いて授業が展開されていた。 施設の生活場面を短い動画にし、場面ごとに解説を加え詳しく説明がなされていた。視覚情報を効果的に提示することによって、学生たちは漠然としていた支援方法がより具体化されたのではと考える。 保育や療育の中で活用しているアプリを、学生が実際に体験する時間が設けられた。ICTを活用した保育の事例をまず学生自身が経験し、その後、アプリの有効な活用法やアプリの使用意図の説明を聞くことで学びが定着すると感じた。また、学生たちは楽しみながら取り組んで		

いた。

・短大を卒業し数年経った卒業生自身が、短大時代の経験や現在の仕事内容を伝えることで、学生たちは「施設保育士」という仕事をより身近に感じられたように思う。保育者となる学生たちにとって将来の視野が広がった講演内容だった。

学生が能動的に取り組んでいる授業を参観し、今後 ICT を効果的に活用しメリハリのある授業を展開できるよう検討していきたいと感じた。

記入者氏名： 仲谷 徹子

科目名:子ども家庭支援の心理学	担当者: 森定 先生	参観日:2022年12月1日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 ・5, 6 限という疲れが出てくる時間帯に「老人の気持ちと支援の方法」という難しいテーマを解説されていた。 まず、コロナやワールドカップなどの身近な話題から入り、学生達の関心を引き出してから、テーマに入られた。世間話などを交えることで、本題にスムーズに入っていたと感じた。 配布プリントの前回の授業の復習から、講義のテーマである「老人の気持ちとその支援方法について」の内容を説明された。 次にインターネット動画で、NHKの番組から視聴を行った。 内容は非常にわかりやすく、学生達でも身近に感じられる内容であった。 視聴の後、グーグルクラスルームを使って、感想を送る時間を取っていた。 ノート提出ではなく、グーグルクラスルームを使用するのは多人数の場合非常に便利であると感じた。 しかし、送ってしまった後、安心して集中力が切れた学生もいたので、ディスカッションを行う場面があった方が良かったかもしれないと感じた。		

記入者氏名： 石川 裕子

科目名:保育内容演習(言葉)	担当者: 川崎先生	参観日: 4年12月14日
参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。 アクティブラーニングや ICT の活用等はありませんでしたが、実体験をもとに、現場で活用できる知識をプリントにまとめられており、話が進められたのでわかりやすかった。 また、授業の導入では、時事問題をテーマ（保育者の暴力）に話が展開されていた。身近な話題を切り口にすることで学生が授業に入りやすくなると感じた。		

IV. 授業評価とFD実践報告書

1) 授業評価

前期7～8月、後期1～2月、授業の最終回に、オンラインによるアンケート形式で実施
担当教員は、A-ポータルを通じて授業評価の結果を確認できる。

アンケートの集計結果は2022年度教学IR報告書に掲載

2) FD 実践報告書

対象教員：全ての専任教員

対象科目：授業評価を受けた全ての担当授業科目

2022 年度 FD 実践報告書

所属 _____
氏名 _____

¹⁾ 担当科目名称	²⁾ 担当クラス	開講期	今年度実施した授業改善の試み	授業評価へのコメントと次年度に向けた改善計画

¹⁾ 今年度担当した全ての授業（卒研や学外実習など授業評価対象外の科目は除く）について記載する。

²⁾ 担当クラスは、保2、食1などを記載（A,B等の区別はしない）

生活文化学科 生活文化専攻

氏名 勝本 泰弘

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
基礎演習	生 1	前期	公務員試験、SPI 対策を意識した数的処理・推論の内容を取り入れ、充実を図った。個々の生徒の演習プリントを毎回添削指導し、コメントを加え、生徒の反応を確かめながら授業を進めた。	公務員試験、SPI 対策も取り入れながら、問題演習と解説を実施したが、やや早口でもあったため十分に理解させるところまで至らなかったところもあった。日常と数学のかかわりや有用性を示すトピックスも取り入れながら、より学生の興味関心を惹く改善を図っていききたい。
情報処理演習	生 1	前期	毎回の学習概要をプリントで提示しながら、授業後の自学復習がしやすいように改良し、基本的に教科書にそって、授業を進めた。また、毎回の学習成果を電子データで提出させ、理解度を確認しながら次回の授業の進め方への参考とした。	高校時代に授業である程度学習している学生とそうでない学生が混在している中、その能力差が大きいので、各自で取り組む場面の教材の充実を図りたい。特に、Excel の指導については、より内容を精査し、関数の活用充実に努めていききたい。
情報処理演習	食 1	前期	毎回の学習概要をプリントで提示しながら、授業後の自学復習がしやすいように改良し、基本的に教科書にそって、授業を進めた。また、毎回の学習成果を電子データで提出させ、理解度を確認しながら次回の授業の進め方への参考とした。栄養士を目指す学生にとって有用な統計処理の内容精選を図った。	高校時代に授業である程度学習している学生とそうでない学生が混在している中、その能力差が大きいので、各自で取り組む場面の教材の充実を図りたい。特に、Excel の指導については、より内容を精査し、関数の活用充実に努めていききたい。

情報処理演習	食 2	前期	毎回の学習概要をプリントで提示しながら、授業後の自学復習がしやすいように改良し、基本的に教科書にそって、授業を進めた。また、毎回の学習成果を電子データで提出させ、理解度を確認しながら次回の授業の進め方への参考とした。栄養士を目指す学生にとって有用な統計処理の内容精選を図った。	高校時代に授業である程度学習している学生とそうでない学生が混在している中、その能力差が大きいので、各自で取り組む場面の教材の充実を図りたい。特に、Excel の指導については、より内容を精査し、関数の活用充実に努めていきたい。
生活文化論	生 2	前期	オムニバス形式の授業で、私が担当したのは100分×2コマでした。1コマ目では、昨年ゼミで研究し、まとめた自然界に潜むフィボナッチ数列について、2コマ目はコンピュータアルゴリズムや電子基板の設計にも活用されており、私の専門分野であるグラフ理論について学生に興味関心を持ってもらいたい内容を選び、授業に取り組んだ。	後期のゼミ紹介を兼ねているので、日常生活に活用されている数学や数学的な思考の有用性を短大で学ぶ楽しさを伝えられるような内容の充実を、さらに図ってきたい。
情報処理演習	保 2	後期	毎回の学習概要をプリントで提示しながら、授業後の自学復習がしやすいように改良し、基本的に教科書にそって、授業を進めた。また、毎回の学習成果を電子データで提出させ、理解度を確認しながら次回の授業の進め方への参考とした。	高校時代に授業である程度学習している学生とそうでない学生が混在している中、その能力差が大きいので、各自で取り組む場面の教材の充実を図りたい。特に、Excel の指導については、より内容を精査し、関数の活用充実に努めていきたい。
情報文化論	生 2	後期	情報技術の発展の歴史をそ	毎回の授業のポイントや感想を

			の文化的背景を示しながら内容の精選を進めた。また、現在の状況や今後の発展予測や留意点について、学生がより興味を持てるような具体的題材を示しながら授業を進めた。	文書で提出させながら理解度をチェックし授業を進めてきた。特に、現代での課題を考察する授業において、各学生の意見を活用する場面が少なかったもので、今後は、その部分を改善し、学生がより興味関心を持てる内容の充実を図っていきたい。
生活文化ゼミ	生 2	後期	「身の回りを確率・統計で説明」と題して学生論集を学生と共にまとめ上げた。今年度は特に前半で確率統計の基本知識と手法を学生に指導し、後半でその統計的手法を使って課題に取り組むという形式でゼミを進めた。	半年という期間の中での取組であるため、後半の課題に取り組む時間が十分とれなかったもので、今後は目的をもう少し絞って取り組むよう計画を改善したい。

氏名 伊藤 宏

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
日本国憲法	生 1	前期	講義形式ではあるが、極力学生が意見を述べたり質問をしたりする機会を増やすことに努めた。日常生活や社会生活との関連付けを容易にできるように、具体的な事例を前年度よりも多く盛り込むなどして学生の関心を喚起した。	質問 1～4 について概ね高評価であったことと、自由記述で「憲法について固いイメージを持っていたけれど、わかりやすい、面白い授業で楽しく受けれたのがすごく良かった」「どの授業より一番ためになると思ったし、面白かった。先生の声が聞き取りやすく話も分かりやすく、眠くなることがなかった」「難しく理解出来ないかと不安だったが、分かりやすい解説で理解できたと思うので、とてもよかった」等、高評価の意見が多か

				ったので、来年度はさらに内容の充実を図って、学生の学習意欲を高めていきたいと思う。「教科書はあまり使わなかったから、来年からは先生がコピーしたものを印刷する形ではどうかと思う」という意見には反省させられた。来年度は、もっと教科書を学生に音読させる機会を増やすなどして、教科書購入が無駄にならないように心がけたい。
地域社会学	生 2	前期	テーマを与えたディスカッションなどを増やし、学生が発言する機会をより多く設けることに努めた。また、カーシェア利用の実証実験などの学外における社会活動への協力などを通じて、地域社会の諸問題に具体的に关わる機会を増やした。	質問 2, 3, 4 について、全体の平均よりややポイントが低かった。自由記述では「今まで知らなかった自分の住んでいるところの良さを知れて良かった」「先生の話を聞くのが楽しかった」「和歌山について知らないことが沢山あって、それを授業を通して知ることが出来て良かった」等、授業に対して肯定的な意見が多かった。問題は、自由記述の記入がないような学生に授業への関心を持ってもらえなかったことである。次年度は、より一層学生の反応に留意しつつ、関心の低そうな学生への配慮を伴った授業内容としていきたい。
情報メディア論	生 1	後期	メディアの発達史など基本的な学問的知識を学ぶ時間を最小限として、極力現在生起している社会問題を題材	質問 1～4 のポイントが全体の平均よりやや低かったことから、授業に関心を持てなかった学生もいたことが推察できるの

			として解説することに努めた。学生が発言しやすいように、関心の高い題材を選ぶことを心がけた。	で、次年度の反省材料としたい。自由記述では「メディアについて色々なことが知れたので良かった」「メディアについて面白い内容が聞けた」「先生の豊富な知識で、現代のこと昔のことを沢山知る機会になった」「実際に経験した話を交えて説明があったので分かりやすかった」等、肯定的な記述が多かった。また「メディアに対して疑問を持つことも大事だと思った」「普段はあまり考えないメディアについて、様々な視点から深く学ぶことができた」「新聞やニュースを信じすぎては駄目だとも気付けた」という意見から、授業の趣旨を伝えることができたと思えた。次年度は、特に授業を積極的に聴いていないような学生に配慮することを重視しつつ、内容をさらに充実させていきたい。
情報コミュニケーション論	生 1	後期	コミュニケーションをめぐる様々な問題を、できるだけ学問的に解説した上で、具体的な解決策を学生自身に見出させることに努めた。学生の身近で生起するようなシチュエーションを題材とすることに留意した。	質問 1～4 については、概ね全体平均より高いポイントであったので、授業としては成功だったと考える。自由記述では「情報の扱い方、発信の仕方を詳しく知ることができた」「資料が多く分かりやすかった」「難しかった部分もあったが、今後活かせる内容が多くおもしろかった。先生の説明が分かりやすかった」等、肯定的な意見が多かった。次年度はさらに内容を

				充実させて臨みたい。
--	--	--	--	------------

氏名 中西 淳平

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
情報処理論	生 1	前期	コンピュータの構成を紹介する際に、実物を準備して、回覧して、見て、触ってもらった。授業の終わりに、穴埋めプリントを配付し、授業内容の復習を行った。	授業評価アンケートにおいて、「授業の計画について」の項目はいずれも 4.6 以上の高評価を得た一方、「授業の内容について」の項目は 3.6 前後と比較的低評価であった。授業内容の特性上、身近に感じにくい部分が多くあるため、授業内容に関する評価が低くなっていると考える。できる限り分かりやすく解説することで対応していきたい。
コンピュータ 科学演習	生 2	前期	Excel 操作の習熟度が低い学生には、気を配って丁寧に説明をした一方、Excel 操作の習熟度が高い学生には追加課題を与えることによって、学生の習熟度に合わせて授業を行った。	授業評価アンケートでは、すべての項目で 4.4 以上の評価を得た。特に「授業の計画について」の項目が比較的高評価を得た。また、「授業の内容について」の項目のうち、「この授業は自分のためになる」は比較的高評価を得た。その理由として、授業内容が学生の興味と一致しているため、と考えられる。次年度も学生の興味を引く課題を用意して授業を進めたい。
マルチメディア演習	生 2	前期	昨年度から担当した授業である。テキストの内容一つ一つの項目について概説を行い、実際に学生に作業させた。また、テキストの説明は	授業評価アンケートでは、すべての項目で 4.1 以上の評価を得た。特に「授業の計画について」の項目は 4.7 以上と比較的高評価を得た。一方、「授業の内容に

			項目に関することが書かれているだけなので、前後の項目同士、あるいはページの離れた項目同士の関連について丁寧に説明した。	ついて」の項目は 4.2 前後と他の項目と比較すれば低い評価となった。昨年度から担当した授業で、まだまだ手探り状態のところが多い。次年度は学生の興味・関心を引く授業内容、課題を準備していきたい。
情報科学	生 1	後期	授業の終わりに、穴埋めプリントを配付し、授業内容の復習を行った。	授業評価アンケートでは、各項目について 3.5～4.7 の評価を得た。最も高い評価を得たのは「この授業はシラバスに示された授業内容に基づいて進められていた」の項目で、最も低い評価を得たのは「この授業は興味や関心が持てた」の項目であった。授業内容の特性上、とっつきにくい部分が多くあるので、授業内容の評価が低くなってしまふ。できる限り分かりやすく解説することで対応していきたい。
コンピュータネットワーク論	生 2	前期	授業の終わりに、穴埋めプリントを配付し、授業内容の復習を行った。	授業評価アンケートは、4～5 と概ね高い評価得たが、受講者がかなり少ないため、評価としての信頼性は高くないと考える。しかし、授業内容の特性上、非常に理解しにくい部分があるにもかかわらず内容が低く評価されていない。今後もできる限り分かりやすく解説するように授業を進めていきたい。
プログラミング	生 2	前期	ビジュアルプログラミング言語である Scratch を用いた授業時には、他のプログラ	授業評価アンケートは、すべての項目で 5 の評価を得たが、受講者が少ないため、評価として

			ミング言語を使用する際にも共通して理解しておくべきことを解説しながら授業を進めた。一方、キーボードからタイプしてプログラミングする VBA を用いた授業では、例題を多く用意して、プログラミングの理解を進めた。	の信頼性は高くないと考える。とはいえ、すべてで 5 の評価がついたのは、今年度の受講生がプログラミングに興味・関心が高かったからだと思う。次年度以降も高い評価を得られるよう、学生の興味・関心を引く課題の準備を進めていきたい。
Web プログラミング	生 2	後期	Web ページの完成例を提示し、HTML を入力、完成させてから、HTML の各要素についての説明を行った。その際、一部を変更することによってどう変化するか、について実演・提示した。	授業評価アンケートでは、すべての項目で 4.3 以上の評価を得た。特に「授業の開始時間や終了時間は守られていた」の項目が比較的高い評価を得た一方、「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった」の項目は比較的低い評価であった。「授業の内容について」の項目の評価は低くないので、次年度は学生配付資料を見直し、充実させたい。

氏名 山本 桂子

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
インターンシップ I	生 1	前期	インターンシップに行かないという選択をしたとしても、将来的には役に立つ授業を意識した。	企業の方の話を聴けたことが良かったという意見があった。コロナの影響が減ると思われるので、積極的にインターンシップ参加を促したい。
プレゼンテーション技法	生 2	前期	昨年度よりペアワークを増やした。学生自ら考えてもらうワークを増やした。	概ね良好な評価であった。身に付けたスキルを活かせる場面をさらに意識してもらう工夫をしたい。

キャリアデザイン	保 2	前期	保育大道先生と連携しながら、保育科独特の部分については大道先生にお願いした。	就活に役に立つ授業との意見が多かったが、ワーク一つ一つがどのような意図で入れられているのかという意識づけが不十分だった。次年度は丁寧に説明をしたい。
医療事務概論	生 1	前期	2年に1度のテキスト改正により授業開始時期が後ずれし、短期間のうちに一気に授業を進めることになるので、学生のメンタルに気を配った。	丁寧にわかりやすかったという意見、スピードが速くついていけなかったという意見両方があった。カリキュラム変更は難しくとも、質問をしやすい雰囲気づくりを徹底するなど、できることを進めたい。
医療事務演習	生 1	前期	メディカルクラーク資格取得へのモチベーションが高まるよう、働きかけた。	予習復習ができていない学生が多いようなので、わからない部分があれば特に復習をするよう促していきたい。
キャリアデザイン	生 1	後期	就職活動の内容のみにならないよう、長期的に自分の将来を考えられる内容も含めた。	結果的には就活に役に立ちそうであったという意見が多数であった。就活以外のキャリアデザインの意義について、丁寧に説明したい。
地域人材育成論	生 1	後期	学外の施設見学を入れ、事前準備、事後の報告会を行い、アクティブラーニングを意識した進行にした。	グループワークが多く、企業の方との関わりが多かったことは高評価であった。パワポ資料をクラスルームにアップして欲しかったという意見があり、検討の余地があると感じた。
人間関係論	生 2	後期	グループワークを、毎回メンバーを変えて行い、いろんな価値観があることを意識してもらえるようにした。	ゲームを取り入れたことで楽しく参加できたという意見があった。次年度は実生活でどのように役立つのかということが、よりわかるような説明を加えたい。

キャリアの心理学	生 2	後期	テキストに沿って、毎回ワークと小テストを行うことで、知識を落とし込んでもらえるようにした。	体験談があったことでわかりやすかったという意見がある一方で、ワークの時間がもっと欲しかったという意見もあり、次年度は講義、ワーク、小テストの時間のバランスを整理していきたい。
調剤事務概論	生 1	後期	学生との丁寧な関りを心掛けた。	質問をしたらわかるまで教えてもらえたという意見があった。一方通行にならない授業進行を次年度も意識したい。
医療接遇概論	生 1	後期	対話形式を多く取り入れ、学生に考えてもらう機会を増やした。	発言の機会が多いことでより深く考えるようになったという意見があった。次年度も引き続き意識したい。

氏名 雨夜 真規子

¹⁾ 担当科目名称	²⁾ 担当クラス	開講期	今年度実施した授業改善の試み	授業評価へのコメントと次年度に向けた改善計画
秘書学概論Ⅰ	生 1	前期	授業において、テキストは随時参照しつつ、主に教員作成のパワーポイントのスライドを活用することにより、より実践的な情報を示した上で、学生が集中力を維持できるよう工夫した。	学生の評価は概ね良好と受け止めている。ビジネス現場ですぐに役立つ実践力を身につけられたと感じているようである。次年度は、秘書検定の合格者増を目指し、過去問演習等を随時取り入れていきたい。
秘書学概論Ⅱ	生 2	前期	授業では教員作成のパワーポイントのスライドを活用し、ビジネス現場で役立つ、より実践的な内容を盛り込んだ。全体的に 1 年次における知識の習得・定着状況が悪かったため、秘書学概論Ⅰの内容の復習と定着に注力し	学生の評価は概ね良好と受け止めている。秘書学に係る内容はもちろんのこと、ワークルールをはじめ、ビジネス現場で求められる様々な実践的な知識の修得に興味をもってくれたと感じている。次年度は、秘書検定の合格者増を目標に、これまで修

			つつ、就活及び就職を念頭に、必要に応じてワークルールや昨今の社会情勢についての解説も実施した。	得した知識をより確かなものにするべく、復習を織り交ぜた上で、随時演習を取り入れていきたい。
秘書実務Ⅰ	生 1	後期	開講時に学生たちの希望を聴取した上で、秘書検定対策として過去問演習及び解説を行う授業形式を採用した。定常の授業でコンスタントに過去問演習を実施することにより、学習習慣の定着と就職に向けた意識の醸成を実現した。	学生の評価は概ね良好と受け止めている。1 年生後期という開講時期に鑑み、次年度も、就活を念頭に、就活を有利にするべく秘書検定合格に向けた演習・解説に特化する方針は継続したい。問題演習後の解説では、教員自身のビジネス現場での体験談等を織り込む等して、学生のモチベーション向上と集中力維持に資する内容としたい。
秘書実務Ⅱ	生 2	通年	就職を間近に控えた 2 年生であることを意識し、ビジネス現場で即戦力として対応できるよう、あらゆるパターンのビジネス文書作成の演習に特化した。また、使用頻度は少ないと思われるものの、英語での電話と簡単な英文資料に対応するための授業も実施した。	学生の評価は概ね良好と受け止めている。開講当初は演習で手が動かなかった学生たちが、回を経るごとに要領を得て円滑に作業ができるようになり、目覚ましい成長を遂げたと喜ばしく感じている。次年度も、今年度同様、演習に特化しトレーニングを繰り返すことで、スムーズにビジネス現場に適応できるよう育成したい。
会計学	生 2	前期	テキストは必要に応じて参照しつつ、毎回必ず教員オリジナルのスライドを用いて、詳細かつ具体的な解説を加えた。また、学期中間と期末にはオリジナルの復習プリントを作成し、それを使って集中的に復習及び補充イン	学生の評価は概ね良好と受け止めている。会計や会社のしくみは当初難しいイメージがあったようだが、それらがよく理解できたという反応がみられた点は、授業運営における工夫が奏功したといえる。次年度も、今年度の授業運営を踏襲し、具体

			プットをする時間を設け、演習による知識の定着を図った。	的な例や図を用い、復習の時間を随時取り入れながら、基本的な知識を定着させる授業を行いたい。
生活文化論	生 2	前期	本科目はオムニバス形式であるところ、労働法および社会保障法に関する分野を計 2 回担当した。卒業後のみならず、学生アルバイトとしても知っておくべきワークルールの基本的かつ重要な部分の知識の修得に資するよう、また、社会人として知っておくべき社会保険のしくみについて、具体的かつ詳細に解説した。	当該回に対する学生の評価は概ね良好と受け止めている。普段教えてもらう機会のない労働法や社会保障法に関する基本的な知識を得て、その重要性を実感したようである。次年度も今年度の内容を踏襲しつつ、必要に応じて問題演習を取り入れながら、少ない時間で効率的に知識修得ができるよう工夫したい。
生活文化ゼミ	生 2	後期	地元和歌山に貢献する人材の育成を視野に、地域振興に資する方策を考え、とりまとめた。具体的には、首都圏の大学生が和歌山県に旅行に行きたいと思うような、工夫に富んだ旅行パッケージを策定した。その一環として、ゼミ生全員でフィールドワーク（現地調査）も実施した。	学生の評価は良好であったと受け止めている。自身の地元の魅力を改めて発見し、それを県外者にいかにアピールすれば効果的であるかを真剣に検討した。この経験は、社会人となって顧客の立場でよりよいサービスを考える上で有用と思われる。次年度は、ゼミ活動の一環として、地域振興に係るビジネスプランコンテストに実際に応募することまで実現すべく、より精緻な方策を作成できるよう導いていきたい。
消費生活論	生 2	後期	※不開講	

氏名 東口 依未

¹⁾ 担当科目名	²⁾ 担当	開講期	今年度実施した	授業評価へのコメントと
---------------------	------------------	-----	---------	-------------

称	クラス		授業改善の試み	次年度に向けた改善計画
家政学概論	生 1	前期	前年度、授業プリントの書き込みスペースが小さいため書き込みにくいとの意見があった。書き込みスペースを広げると共に PPT のフォントも見やすいものに変更し、文字も大きくして遠くからでも見えるようにした。	プリント資料と口頭説明での進め方が分かり易いとの意見があった。PPT で授業を進めた事で分かり易かったとの意見もあった。
ファッション・ブライダルコーディネート I	生 1	前期	学生からの満足度も高く、特に改善は試みなかった。	浴衣の着付という普段ではあまりない経験が出来て良かった、メイクや施設見学など幅広い分野のことをマ投げたり貴重な経験が出来て良かった、との意見が多かった。
フードコーディネート	生 2	通年	教科書の学びを深めるために、PPT を使い写真やイラストを多様して学生の理解に努めた。また、食事メニューやテーマを学生自ら考案させ、実習を行うことで自主性を持って授業に望めるように試みた。	学生の授業評価を見ても 4 以上を獲得できており、ある程度評価を得られたといえる。自分たちでメニューを考案させた事で、様々な種の料理に挑戦出来たことも高評価だった。
調理実習 I	生 1	後期	実習開始前に、レシピの確認を行い、調理示範を取り入れることで、作業がスムーズに行えるように試みた	普段あまり会話した事のない人とコミュニケーションが取れた、作った事のない料理に挑戦できて良かった、との意見があった。実習を通し調理の大変さと楽しさが分かったとの意見が見られた。これからの生活で料理を作っていきたい、といった前向きな意見もあった。

生活文化学科 食物栄養専攻

氏名 西 出 充 徳

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
食品学Ⅱ（各 論・加工学を 含む）	食1年	後期	パワーポイントを使用。テキストを中心にして、テキストに直接アンダーラインと書き込みを実施し、テキストとノートの区別をつけない方法を実施。また、最重要事項は、授業終了時の小テストを実施してまとめとしている。	学生からは、授業への取り組み内容について評価を受けた。このことにより、次年度の授業方法も同じ方式で行いたい。また、新型コロナウイルスの感染が終息すれば座学であっても珍しい食材は試食させたいと考える。
食品学Ⅱ/生	生1年	後期	パワーポイントを使用。テキストを中心にして、テキストに直接アンダーラインと書き込みを実施し、テキストとノートの区別をつけない方法を実施。また、最重要事項は、授業終了時の小テストを実施してまとめとしている。 生活文化専攻では、食物栄養専攻と内容を少し変え、フードコーディネートに関連した内容で授業を行った。	生活文化専攻での授業では、食物栄養専攻の講義内容である栄養成分を中心とした講義内容とは角度を変えて各地の特色ある調理法や加工法を特色としたため、今年度の学生の評価としては問題点がなかったので、来期の教授法につなげたい。
食品衛生学	食1年	前期	学生の理解度に合わせてパワーポイントのスライド数を修正し、授業を行った。特に、真面目に取り組む学生に対しては、板書で試験のポイントとなる箇所を示した。（テストポイントのみを記録して集中して講義を受講しない学生への対応）	学生からの評価として新たに分かったことは、「授業中にたくさん質問しながらの授業だったので理解をしやすかった」という事であった。一般には、授業中に質問して当てないで欲しいという傾向が以前はあったが、全くこれまでとは異なる意見もあることが分った。これは、学

				生の発言を促す点でも良いと個人的に考えており、来期につなげたい。
病理学	食 1 年	後期	昨年は、スライドの展開の早さ、資料の配布希望などの評価がされていた。通常は診療されている中で時間を割いて講義して頂いていることを学生に丁寧に説明し、理解できる様に取り組んだ。	結果としては、昨年の評価とは大きく異なり、病気について多くを学べ、難しいことも理解し易く興味を持って静かに授業に取り組むことが出来たと評価を受けている。特に非常勤の先生方 3 名に対して非常に高い評価であったので、私もドクター方の指導法を良く調べて学ばせて頂きたい。
食品学各論実験	食 2 年	後期	通年で取り組んでいた授業を半期に実施することとなり、かなり時間的な制約の中での実験実習であったため、説明には板書から ICT 活用により時間短縮を行った。	大半の学生が円滑に授業に取り組めていたが、中には実験や実習が出来なかったり、指導の指示を聞かず授業に参加する学生もあり、実験グループ全体に影響を及ぼすことがあった。また、時間内に終了できない事に対し不満を発する学生もいる。次年度では、実験実習の取組に対してもっと自覚させた授業を目指したい。
製菓理論	食 1 年	前期	ICT 活用で授業展開。昨年の課題であった製菓理論の履修者数と製菓実習の履修者が同数になるように履修説明に注意した。	製菓理論の履修者数と製菓実習の履修者数は、昨年より大幅に改善された。今年の問題点は、パワーポイントのスライドの文字が少し小さいとコメントが出ているので改善したい。

製菓実習	食 1 年	前期	ICT 活用で授業展開。製菓理論を受講しないで製菓実習を受講していたことの改善により、実習を円滑に行える様に履修時に説明を行った。	理論と実習の両立により、実習はスムーズに進行し、制限時間内に実習を速やかに終了する結果が得られた。学生からのアンケートでは、実習の各班ごとの行動を自由に行いたいという意見が出ていた。これは、理論で理解した内容を成功、失敗も含めて取り組みたいとの意見であり、次年度は理論を理解させたうえで自由に取組ませることも試みたいと考える。
キャリアデザイン	食 1 年	後期	昨年同様に栄養士実力認定試験への取組では、短時間に複数問を暗記させる方法で行った。また、昨年問題点であった短期間での複数問暗記方法が、有効であることを他の教員にも伝えた。	学生からの結果として、栄養士実力試験の取組では 1, 2 年で学んだことの総集編を完成させることであるため、パワーポイントの活用した学習の復唱回数を増やして学習させることが学生からのコメントでも感じ取れた。さらに、練度を上げた学習方法に取組みたい。
紀の国の食文化	全 2	前期	昨年度の問題点とされていたスライドの進め方は、枚数を減らすことと、記録の必要のないスライドについては注意喚起して授業に取り組んだ。また、伝統食にかかわる実技なども授業に取り入れた。	学科専攻別で問題点が上がっている。栄養士を中心として教え方と捉えている学生のアンケート結果が出ていたので、今後はどの学科専攻別の学生でも理解できるように授業を行う予定である。

氏名 芝田 史仁

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
解剖生理学	食 1	前期	講義内容の絞り込みを行う	授業評価では【授業計画】に関

			と共に、パワーポイントの文字を大きくし、後ろの座席からも見やすくなるよう工夫した。	する評価の平均が昨年度 4.8 から 4.6 に、【授業の内容】が 4.5 から 4.3 に、【教員の教え方】が 4.6 から 4.5 に、【授業の成果】が 4.6 から 4.4 へといずれもやや数値が下がるという結果になった。今年度改善した取組に対しては、『教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。』に 4.5 と、一定の評価を得ることができた。今後の課題としては、『この授業は興味や関心が持てた。』への評価が 4.2 と、他の項目に比べて低いことが挙げられる。人体の構造と機能への理解が、生活習慣病やアレルギーなど、食と健康にまつわる身近な課題の解決に欠かせないことを、具体例を示しながら説明することで、興味・関心の向上に努めたい。
保育内容演習 (自然)	保 2	前期	まとめシートの内容を精査し、課題を絞った講義を心掛けた。また、パワーポイントの文字を大きく、見やすくなるように工夫した。	授業評価では【授業計画】に関する評価の平均が昨年度 4.5 から 4.5、【授業の内容】が 4.4 から 4.2、【教員の教え方】が 4.4 から 4.3、【授業の成果】が 4.5 から 4.3 へと、やや評価が下がる結果となった。二つのクラスを担当しているが、全評価平均が 4.1 と 4.5 と、クラス間で評価が大きく異なり、どの質問項目においても 0.5 ポイント程度、同一クラスの評価が低かつ

				た。両クラスの授業は同じ曜日に行っており、内容も全く同じであるため、クラスの状況に合わせた授業展開が課題である。 アンケート結果の分析では、『この授業は興味や関心が持てた。』『この授業は自分のためになる内容だった。』という設問にどちらのクラスにおいても、「どちらでもない」と応えた学生の大多数が、『授業の目標が分かりやすく示されていた。』という設問に「どちらでもない」と応えていた。各回の授業に学生が見通しを持って取り組めるようにすることが学生の意欲向上に繋がると考える。来年度は、各授業回の流れと到達目標をクラスの状況を見ながら分かりやすく提示することを心掛けたい。
紀の国の自然	全 1	後期	パワーポイントの資料に、最新の情報を盛り込むよう心掛け、分かりやすく、興味を持てる情報の提示を心掛けた。また、資料の文字を大きくし、印刷して配布する際に、読みやすくなるように配慮した。さらに、授業内で、Google フォームを使った課題を提示し、学生が主体的に学べるように工夫した。	授業評価では【授業計画】に関する評価の平均が昨年度の 4.6 から 4.4 に、【授業の内容】が 4.2 から 3.8 に、【教員の教え方】が 4.3 から 4.0 に、【授業の成果】が 4.4 から 4.0 に、いずれも大幅に下がるという結果になった。特に、授業の内容に関する『この授業は興味や関心が持てた。』『この授業は自分のためになる内容だった。』『授業の目標が分かりやすく示されていた。』への評価がいずれも 3 点台と他の評価項目に比べて低いことが

				課題である。講義を学生がただ聞くだけでなく、重要項目を聞きながらまとめるプリントを配布し、主体的に学生が授業に取り組めるように改善していきたい。また、『授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた。』への評価も、3.7 と低い結果となった。これは、これまでのセシリアホールから視聴覚室に移動しての講義となったことが主な要因と考える。授業に興味の無い学生が後方に集まり、私語をすることが目立った。次回は、座席を指定し、集中できる環境維持に努めたい。
子どもの自然遊び	保 2	後期	提供する情報の内容を精査し、パワーポイントやまとめシートの情報量を減らして、わかりやすく伝えることを心掛けた。また、学内の自然環境を活用したネイチャーゲームを多く体験できるようにし、学生の自然への興味・関心の向上を図った。	授業評価では、【授業計画】に関する評価の平均が昨年度の 4.6 から 4.3 に、【授業の内容】が 4.5 から 4.2 に、【教員の教え方】が 4.5 から 4.2 に、【授業の成果】が 4.4 から 4.2 と、いずれも下がるという結果になった。昨年度と同様、クラス間で評価に差があり、平均で 4.0 と 4.4 という結果であった。この傾向は前期に同じクラスで行った別の授業でも同様であった。アンケート分析の結果も、前期授業と同じく、『この授業は興味や関心が持てた。』『この授業は自分のためになる内容だった。』という設問に「どちらでもない」と応えた学生の大多数が、『授業の目標

				が分かりやすく示されていた。』という設問に「どちらでもない」と応えていた。その日の到達目標と授業の流れを授業開始直後に提示し、学生が見通しをもって授業に取り組み、達成感を感じられるよう、改善したい。
キャリアデザイン	食 2	後期	全国栄養士実力認定試験頻出項目に内容を搾り、まとめ問題を作成して学習意欲向上を図った。	授業評価では【授業計画】に関する評価の平均が 4.1、【授業の内容】が 4.2 に、【教員の教え方】が 4.2 に、【授業の成果】が 4.3 という結果になった。自由記述の回答においても、分かりやすかったなど、学生には評価されているようであった。一方、授業分析の結果、「この授業は自分のためになる内容だった」の設問に「どちらでもない」と答えた学生の 100%が「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。」の設問に「どちらでもない」と答えており、担当教員間で講義の手法が大きく異なったことがその要因と思われる。今後は、担当教員間で事前の意思疎通を図り、教授方法のすりあわせを行っていききたい。

氏名 岡井 明美

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講 期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
臨床栄養学 各論	2 年	前期	今年度から担当。 授業進行や小テストの結	授業評価から、受講目標や授業内容への興味や意欲の違う学生

		果から、基礎内容の理解が曖昧な学生が多かったので1年時の内容を復習しながら授業を行った。 授業評価については、特に大きく評価が低い項目は無かった。 学生の自由記載では、「1年で習った内容を振り返りながら授業を受けることができた。」「わからないところを、丁寧に教えていただいたのでよかった。自分自身とても興味がある分野であるが内容をきちんと整理できていないため、今後もっと復習を積み重ねていこうと強く思いました。」「わかりやすかった」「分からない所はすぐに教えてくれた」「実習を通して、様々な体験ができたのでとても身についたと感じた。」「詳しく学ぶことができよかった。」「配布プリントが丁寧にわかりやすかったです。」「面白かった」など、授業内容や方法について妥当性があると思われる回答があった。学生の意欲が伺われる回答とは別に「卒業必須だから履修するのに、栄養士になるからと栄養士ワードをいっぱい言われしんどかった。」「もう少し復習もかねて教えて欲しいな	が同じ授業で興味を持てる構成が必要と考える。その対策として、Google フォームを使ったアンケートや課題を実施し学生の理解度を把握して授業を組み立てる。 毎回の授業内容は、基礎を確認しながら、応用編は自由課題を設け個別対応で学生の知識や意欲の向上に繋げていけるような資料の作成を行う。臨床に興味のある学生に対しては、今年度と同じく「臨機応変に対応できる力をつける」ことを目標に、臨床の現場での対応や具体的な事例や症例の自由課題を取り入れる。自由課題については、個別の目標に合わせた添削指導を行う。
--	--	---	---

			と思う時があった」等があった。	
臨床栄養学実 習 I (計画)	2 年	前期	今年度から担当。 食品構成、献立作成の基礎となる調理や食材についての知識・適量の把握が苦手な学生が多かった。対策として、作成した献立の分量で仕上がりイメージできるように、実際の食材や実物大の食材パネルを教材として取り入れた。 関連する授業で学生が学んだテキストを用いた復習を行いながら、モデル献立をベースに献立展開の指導を行った。 授業評価については、相関係数が 0.80 以上の項目は、「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。」と「学生の質問に対して適切に対応していた。」0.864、「授業の目標が分かりやすく示されていた。」と「教員の言葉は、聞き取りやすかった。」0.849、「この授業は興味や関心が持てた。」と「私はこの授業に意欲的に取り組んだ。」0.825、であった。 自由記述では、「スライドをプリントにしてくれたのがよかった。」「前日の授業の内容を踏まえた授業だったのでわかりやすかった。」「次回の授業	病院給食で必要な疾患別献立については、疾患別の食事療法のポイントは知っていても献立への反映が苦手な学生が多かった。 大量調理における献立では、調理による食材の変化や調味パーセントの調整など実践に繋ぐことが苦手な学生が多いことがわかった。 学んだ知識を実践に活用できることを目標に、次年度は関連する授業担当教員との連携をはかり、指導の基本となるテキストを共有し授業を組み立てる。 献立作成については、学生には各自が立てた献立を自宅で試作する課題を取り入れていく。

			で行う内容を言ってくださっていたのであらかじめ家で考えることができたので良かった。」「詳しく学べてよかったです。」など、授業の方法の妥当性があると思われる回答が多かった。少数回答で、「理解できたところもあったが分からないところもあった。」、「生徒に合わせて授業を進めて欲しい」など、授業のスピードを速く感じている学生や理解度にあっていなかったとする意見があった。	
医療事務総論	2 年	前期	今年度から担当。 履修者が少ない中での簡易分析であるが、「この授業はシラバスに示された授業内容に基づいて進められていた。」と「学生の理解に合わせて授業が進められていた。」、「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。」と「授業に集中できる環境、雰囲気を整っていた」、「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。」と「学生の質問に対して適切に対応していた。」、「授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた。と「学生の質問に対して適切に対応していた。」、「この授業は興味や関心	学生が興味関心を持ち意欲的に授業に取り組めるように、ロールプレイやグループワークの回数を増やしていく。

			が持てた。」と「授業の目標が分かりやすく示されていた。」は相関係数が+1であった。 「私はこの授業に意欲的に取り組んだ。」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。」は相関係数 = + 0.919 であった。 自由記述では、「ありがとうございました。」「医療事務について知ることができてよかったです。」「分かった。」「敬語や保険について少し難しかった。」「社会に出て使う敬語をたくさん学ぶことができてよかった。」などの記述があった。	
医薬と検査	2 年	後期	今年度から担当。 履修者が少ない中での評価だが、「わかりやすく教えてくれてよかったです」「分かった」「教科書のまとめなどが少し難しかった」「病院内の機関など、基本的なことから学ぶことができてよかった。」などの自由記述があった。	毎回の授業で確認問題を行ったが、テキストだけでなく実際の薬剤や機器、検査データを教材として用いると学生の理解もよかった。 今後、このような教材を取り入れた授業の組み立てを増やしていく。
臨床栄養学実習Ⅱ（実習）	2 年	後期	今年度から担当。 授業は、グループ単位での献立作成と調理を行った。調理実習では①1日のモデル献立の試作、②モデル献立を基本に疾患に適したメニューへの変更と試作、③グループ別に	グループで検討し作成提出された献立については、学生の気づきを促すために、学生には事前に修正箇所を伝えず実習後グループで改善についての検討を提出する方法をとった。学生の授業評価や自由記述から、失敗か

		献立作成と試作を取り入れた。 簡易分析より、「授業の目標が分かりやすく示されていた」と「教員の言葉は、聞き取りやすかった。」の相関係数は $+0.916$。「教員の言葉は、聞き取りやすかった。」と「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。」は相関係数 $+0.909$。「授業の目標が分かりやすく示されていた。」と「学生の理解に合わせて授業が進められていた。」は相関係数 $+0.893$。「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた。」は、相関係数 $+0.801$ であった。 自由記述では、「たくさんの治療食について学べてよかった。」「よく分かった。」「わかりやすく教えてくれてよかったです。」「授業プリントを配布してくれるのが良かった。」「最初に献立を立ててそれを試食した時、この技術で栄養士になっても大丈夫なのか不安がありましたが、この授業を積み重ねるうちに自分自身でも納得のいく献	ら学びがあったことが伺えた。 また、臨床の場では、確認不足により対象者に適切な食事が提供できないことや経済的な損失につながることも認識できていた。 次年度は、今年度よりも多く実習体験ができるように授業を組み立てる。
--	--	--	--

			立を作れるようになり、とてもためになった授業でした。ありがとうございました。」「様々な形態食についての学びを深められて良かったです。」「様々な献立を考え調理をすることで将来に少し繋がるが出来たので良かったです。」「自分たちでたてた献立を実際に作り、改善点を見つけることができた点が良かったです。」「実際に作らないとわからないことがたくさんあり、勉強になりました。ありがとうございました。」「自分たちで献立を立てそれを実際に作ることで、出来上がりのボリュームや味付けを知ることができて良かった。」「色々な実習ができたので良かったなと思いました。」などの意見があった。	
キャリアデザイン	2 年	後期	過去の問題集で出題頻度の高い項目と授業中の小テストで正解率の低かった問題及び総合問題を中心に授業を行った。 オムニバス形式のため、自身の授業方法についての評価判定が困難である。	分野別の学生の正解率を分析し、授業方法を組み立てていく必要がある。

氏名 森岡 美帆

1) 担当科目 名称	2) 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
---------------	--------------	-----	--------------------	----------------------------

栄養教育論 I	食 1	前期	導入部分で興味、関心を持ってもらえるように実務に関する話題を加えるようにした。 グーグルクラスルームによる確認テストを実施した。 資料の PDF、関連 Web ページの URL をグーグルクラスルームにアップした。	・ GP と到達目標の相関では、知識・理解、態度・志向、技能・表現、思考・判断に対応する目標について高い相関が示された。 ・ GP と GPA の相関は比較的高い傾向で、評価結果の妥当性があると考えられる。 ・ 授業評価について、3.80 から 4.95 で平均 4.32 であった。「この授業は興味関心が持てた」「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」以外は、概ね高い評価であった。 ・ 相関係数が 0.70 以上の項目は、「授業に集中できる環境、雰囲気を整っていた」と「学生の質問に対して適切に対応していた」で 0.749 であり、「学生の理解に合わせて授業が進められていた」と「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役立った」で 0.738 であり、「授業に集中できる環境、雰囲気を整っていた」と「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」で 0.712 であった。 ・ 傾向分析について、「この授業は興味や関心が持てた。」でどちらともいえないと回答した 62% が「私はこの授業に意欲的に取り組んだ。」でどちらともいえないと回答していた。「学生の理解に合わせて授業が進められていた。」でどちらともいえないと回
---------	-----	----	--	---

				答した 50%が「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。」でどちらともいえないと回答していた。 ・自由記載について、「ICT に写された資料を classroom にも送信されていたので、手元で見ることができ、家に帰っても見返すことができたのが良かった」 「PDF など参考資料を送ってくださったので理解しやすかった」「とても静かで集中できる環境で受けることが出来た」「先生の話も聞きやすく、プロジェクターを進める速さも私自身ちょうど良い速さでした。また授業開始と終わりにはちゃんとした礼儀を教えてもらい将来就職する時役立つことをしてくれてとても良かった」「授業のはじめに今日の目標が示されていて、何を学ぶのかが分かって、授業を理解しやすかった。」 「PowerPoint を進めていく上で教科書のどの範囲をやっているかわからない部分があった。」 「教科書のページがたまにどこをやっているのかわからなくなることがあった」 ・次年度に向けた改善計画について、毎回の授業で、目標を示し、前回の授業の内容について確認テストを行っていること
--	--	--	--	--

				が、評価の結果の妥当性につながっていると考えられるので、今後も継続していく。大半の学生が、目標が明確で、授業の進行速度がちょうどよいと回答していたが、教科書のどの範囲かわからない時があるという自由記載があったので、教科書のページ数をパワーポイントに記載するようにする。興味、関心がないと意欲的に取り組むことができていないことが判明し、学んでいる内容と将来の関わりについて考える機会が高くなると、授業への興味関心が高くなる傾向にあると言われているので、将来の関わりについて具体的に提示するように授業内容を検討する。
栄養教育論Ⅱ	食 1	後期	スライドの表示と説明のタイミング等を改善した。	・ GP と GPA の相関は比較的高い傾向で、評価結果の妥当性があると考えられる。 ・ 授業評価について、4.39 から 4.79 で平均 4.60 であり、概ね高い評価であった。 ・ 相関係数が 0.80 以上の項目は、「急な休講や補講、教員の遅刻や早退などは無かった。」と「授業の開始時間や終了時間は守られていた。」で 0.827 であり、「授業の開始時間や終了時間は守られていた。」と「授業に集中できる環境、雰囲気を整っていた」で 0.811 であり、「授業の

				目標が分かりやすく示されていた。」と「授業に集中できる環境、雰囲気を整っていた」で 0.802 であった。 ・自由記載について、「この授業で良かった点は3つある。1つ目は今日の目標が明確に表示されていて何をすべきか分かりやすかったことである。2つ目は教科書に色々書いているが重要な部分や大事なところをピンポイントで教えて下さったので理解がしやすかった。3つ目はノートに前のスライドを書くという作業があったため頭に入りやすかった。」、「前期の栄養教育論 I と同様に、授業開始してすぐ前回の内容の小テスト、講義の前には今回の講義で学ぶべき事柄を示すなど、授業のフォーマットが確立されており分かりやすかった。」、「教科書やプリント、スライドなどの様々な教材があり、解説も分かりやすかった。確認テストも前回の復習になって良かった。」、「理解に合わせて授業を進めてくれるのが良かった。」 ・次年度に向けた改善計画について、学生の理解度に合わせた授業を心掛けたことによって、高評価が得られており、次年度も継続していくようにする。
栄養教育論実	食 1	後期	計算等が苦手な学生が気軽	・GP と GPA の相関は比較的高い

習 I			に質問できるような雰囲気作りを行った。	傾向で、評価結果の妥当性があると考えられる。 ・授業評価について、4.39 から 4.79 で平均 4.62 であり、概ね高い評価であった。 ・相関係数が 0.90 以上の項目は、 「授業の目標が分かりやすく示されていた。」と「学生の質問に対して適切に対応していた。」で 1.00、「授業の目標が分かりやすく示されていた。」と「授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた。」で 0.947、「授業に集中できる環境、雰囲気が整っていた。」と「学生の質問に対して適切に対応していた。」で 0.947 であった。 ・自由記載について、「初めは日誌を書くことが難しいと感じていたけど次第に慣れてある程度の文章が書けるようになったので良かった。」「実習日誌とそのフィードバックが毎回ある事で技術の反省、改善がしやすかった。」「成分表の早引きを毎回授業で行っていたので成分表を引くのが早くなった。目標が提示されていてやりやすかった。先生の説明が丁寧で分からないところを優しく教えてくれた。」「生徒のスピードに合わせて授業を進めてくれていたので分かりやすかった。先生が教室内を
------------	--	--	----------------------------	---

				動き回ってくれたので、分からないところを聞きやすい環境だった。」 ・次年度に向けた改善計画について、分からないところを気軽に質問できる雰囲気づくりに努め、学生の理解度合いをじっくりと確かめながら進めたことで、高評価を得られたので、次年度も同様に実施していくようにする。
栄養教育論実習Ⅱ	食2	前期	実習日誌のフィードバックで、段階的にスキルを修得できるようにした。	・GP と GPA の相関は比較的高い傾向で、評価結果の妥当性があると考えられる。 授業評価について、4.31 から 4.62 で平均 4.50 であった。 自由記載について、「学生の理解に合わせて授業をしていて良かったと思う。」、「小テストを通して自分の食生活を見直すことが出来た。」 「課題が大変だったが、その分力がついたと思う。」、「実習日誌のフィードバックが良かった。」 ・次年度に向けた改善計画について、開講期を前期から後期に変更したので、各自が作成する栄養教育媒体の作成スキルをアップするように検討する。
公衆栄養学	食2	前期	導入部分で興味、関心を持ってもらえるように Web ページを活用した。	・GP と GPA の相関は比較的高い傾向で、評価結果の妥当性があると考えられる。 授業評価では、各項目について 4.267 から 4.667 で平均 4.5 の

				評価を得た。 自由記載について、「学生の理解に沿って詳しい解説があったのでよかった。」、「毎回小テストがあったので、少しずつ身につける事ができた。」 ・次年度に向けた改善計画について、毎回の授業で、目標を示し、前回の授業の内容について確認テストを行っていることが、評価の結果の妥当性につながっていると考えられるので、今後も継続していく。
栄養学各論実習	食 2	前期	学生の理解度を確認しながら進めた。	・GP と GPA の相関は比較的高い傾向で、評価結果の妥当性があると考えられる。 授業評価について、4.36 から 4.64 で平均 4.55 の評価を得た。 「この授業は興味や関心が持てた。」の項目でとても評価できると回答した学生の 94%が「この授業は自分のためになる内容だった。」と「授業の目標が分かりやすく示されていた。」の項目で、89%の学生が「学生の理解に合わせて授業が進められていた。」、「教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、実演などは、授業内容の理解に役だった。」の項目で、とても評価できると回答している。 自由記載について、「学生の理解に合わせて授業をしていてよかったと思う。」、「説明がいつも丁

				寧で安心して授業を受けることができた。」 「レポートが大変だったが自分のためになった。」 ・次年度に向けた改善計画について、丁寧な説明で、学生が安心して授業を受けられると感じると、意欲的に取り組むことにつながっているので、今年度同様に次年度も学生の理解度合いを確認しながら進めていく。
健康管理概論	食 2 生 2	後期	導入部分で興味、関心を持ってもらえるように Web ページを活用した。 グーグルクラスルームによる確認テストを実施し、資料の PDF、関連 Web ページの URL をグーグルクラスルームにアップすることを継続した。 毎回、授業の振り返りについて、用紙に記入してもらっていたが、グーグルフォームで入力してもらった。	・授業評価について、4.18 から 4.39 で平均 4.00 であった。 自由記載について、 「授業前に小テストをやることで自分の覚えられていないところをわかることが出来た。」「これから習う所のこういう部分を理解するよう進めるというように示してくださるのでとてもわかりやすい」、「ポイントをしつかりと教えてくださったのでとてもわかりやすい授業だった。 また、わからないところは教科書を用いてわかりやすく教えていただき、とてもわかりやすかった。」「学生の理解とともに授業がすすめられていたのはとても良かった。授業の気づきも毎回頑張ったので文章力に自信がついた。」「ポータルを使っの授業だったので、自分のスマホに資料が残るのであとからでも見やすかった。」

				・次年度に向けた改善計画について、毎回の授業で、目標を示し、前回の授業の内容について確認テストを行い、授業の振り返りを入力してもらうことが評価の結果の妥当性につながっていると考えられるので、今後も継続していく。
キャリアデザイン	食2 オムニ バス	後期	資料の PDF、関連 Web ページの URL をグーグルクラスルームにアップした。	・GP と到達目標の相関では、態度・志向（自ら進んで知識技術の獲得に積極的に取り組むことができる。）に対する目標について高い層鑑みられた。 ・授業評価について、4.04 から 4.38 で平均 4.18 であった。 ・自由記載について、「実力認定試験に向け勉強するキッカケになり、各教科別で授業もあったので理解しやすかった。」「全ての分野のテストの解説をさせていただきたかった。」 ・次年度に向けた改善計画について、栄養士実力認定試験過去問題集を教科書として採用して、前期から各自が取り組むことができるようにする。

氏名 野志 昌弘

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
食品学 I	食物栄養 1 年	前期	準備の煩雑さならびに資源ロスおよび配布時間の解消のため、資料の紙媒体での配布をやめデータでの提示と	聞き取りながらノートに書きとることが難しい受講生が確実に増加しているため、資料の提示は授業に集中させるためにも効

			した。 前回授業内容の小テストを授業冒頭に行うことで、授業に集中する理由付けを即物的ではあるが明確に提示した。	果的であると感じた。 授業評価アンケートからも資料の配布は好意的であると見て取れた。 ただし、資料配布は学習意欲の高い受講生には効果的であるが、そうではない受講生は資料を受け取るだけで満足あるいは理解したつもりになるようで、その辺りは対策の必要性を感じた。 小テストを期末試験等により直結するように工夫することで授業に集中する必要性が増加するかもしれないと考えた。 授業内容を難しいと感じる受講生が一定数いるが、小テストや諮問などで確認できることとして、この専門科目を受講する以前の内容でつまづいているケースが多いと感じた。 専門科目の導入的な位置づけとなる科目が別途必要であると感じている。
栄養学概論	食物栄養 1 年	前期	新規担当科目	上記「食品学 I」と同様である。
生化学 I	食物栄養 1 年	前期	新規担当科目	上記「食品学 I」と同様である。
生理・生化学実験	食物栄養 2 年	前期	新規担当科目	下記「食品学総論実験」と同様である。

生化学Ⅱ	食物栄養 1 年	後期	新規担当科目	上記「食品学Ⅰ」と同様である。
食品学Ⅲ	食物栄養 2 年	後期	授業の到達目標に「栄養士実力認定試験」で高得点を取れるように理解を深めることを掲げた。 学生にとって学習内容が身に付いて役立ったことがわかりやすいポイントを設定することが学修意欲の増進に効果的であることを期待した。	当該科目は選択授業であるため、より高い学びを得たかったり資格試験などで高得点を得たいような学生にとっては魅力的であったように授業評価アンケートからも見てとれた。 ただ、履修の取り消し可能期間において履修を取りやめたものが数名みられた。 これは、第 1 回授業内容が食品加工の通念についての授業内容であったため、面白さや点数アップを目的に受講しにきた学生の一部にとっては、想像した授業とのミスマッチさを感じ取ったり、面白そうな授業であると感じ取れない内容であったと予想した。 受講生の数を増やすためには、初回から第 2 回授業以降で行うような、試験対策ポイントや日常で使える食品知識などをもっと全面的に押し出した内容にするべきであったかもしれない。
食品学総論実験	食物栄養 1 年	後期	レポート課題による成績評価を行っているが、この課題の量および質について検討した。 具体的には、調べるべき事項をプリント課題で誘導したり、考えるべきポイントを選	レポート課題に関しては、わからない点を繰り返しさせること、自分のノートを使って試験を受けてよいとすることで、自信の学習内容をまとめることの重要性及びその方法について学んでくれた事を期待している。

			択式課題したうえで様々な考察点があることの重要性やそれぞれの利点問題点などを説くことで「考える」練習をすることに重きをおいた。 また、昨年問題となった授業時間超過をクリアするため、班での実験作業時に何もしていない/しなかった受講生がでないよう巡回指導を強化した。	授業時間の超過に関しては、今年度も改善されず、むしろ悪化した。 これは、実験作業に全員が参加するようにしたところ、今まで複数人みられた実験器具の後片づけのみを行い実技に積極的に参加しなかった学生がいなくなったためであることが明確に見て取れた。 また、班内でスムーズに分担分けして作業を実行することが難しいようで、そのようなコミュニケーション能力の低下および受講生間での理解深度ならびに下地となる情報量の格差が問題であると感じた。 さらには、与えられた課題を時間内に終わらせるために必要なことを考えて実行できる学生が激減しており、言われたことしかできずかつ言われている内容が理解できないかつ与えたレジュメの内容を読めないものが増えすぎている。 コロナ 2019 対策で2教室に分けて実験を行っていることも、こちらの指示を通しにくくする一端となっている。 レポート課題のウェイトを下げ、予習のウェイトを上げることが授業のスムーズな進行に繋がることを期待したい。
--	--	--	---	--

氏名 成田 仁美

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
調理学	食 1	前期	教科書に沿って授業を進める中で、理解を深めるためにスライド、プリントなどの補助教材を提示した。また、調理学実習 I で習得した調理の理論を詳しくとりあげ、体験した内容が深く理解できるように促した。	スライドやプリントがわかりやすかったと高評価だった。 一問一答式の練習問題を出題することで、基礎知識の定着に役立つと感じた。
給食管理	食 1	前期	教科書に沿って授業を進める中で、理解を深めるためにスライド、プリントなどの補助教材を提示した。白板やスライドの文字の大きさが後ろの席から問題なく見えるように配慮した。	スライドがわかりやすかったと高評価だった。 出席番号順で座席指定されているので、視力が悪い学生が偶然後ろの席に割り当てられていると、字が見えにくいというコメントが挙がる。クラス担任が後期から席替えをして対応していたが、前期からもそうした学生への配慮が必要だと感じる。
調理学実習 I	食 1	前期	授業で扱う調理の理論が理解できるように指導した。安全面に配慮しながら、巡回指導を行い、個々に応じて調理指導した。	1 人 1 人に合わせて調理指導したところが高評価であった。
給食管理実習 II	食 2	前期	衛生管理事項をふまえた給食提供への理解を深めるために、各自に割り当てられた担当の衛生管理事項について、給食の提供前・後で自己評価・他者評価を行うワークシートを取り入れた。こうすることで、役割意識の向上と	全体指導では伝わらない基礎学力が低い学生への個別対応が必要だと感じる。

			衛生管理事項をふまえた準備を自主的に促すことができた。	
調理学実習 II	食 1	後期	授業で扱う調理の理論が理解できるように指導した。限られた時間の中で、料理を効率よく上手に作業を進められるように声掛けした。	調理技術は、もともとの素質に加えて各家庭での経験の差の影響が大きく、個人差が見られるため、後期も引き続き巡回指導で 1 人 1 人に応じて調理指導をした。こうした授業スタイルは、調理技術に対して不安を抱いている学生にはおおむね好評だが、もっと高度な技術を学びたいと希望している学生への指導法を検討する必要がある。
給食管理実習 I	食 1	後期	ワークシートは、グーグルクラスルームの限定コメントや画像提出機能を活用して添削した。	ワンステップずつ積み上げて課題を与えている授業のため、学生が欠席するごとに個別に補充授業を設けて、学習進度に遅れがでないように配慮したため、学生からの評価は高かった。ただし、前期開講科目の「給食管理」をある程度理解できていることが前提であるため、理解不足の学生には夏休み中に補充授業を行うなどの個別対応が必要だと感じる。

氏名 堀江 大輔

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
食育実践演習	食 2	前期	本授業は演習であり、授業内での食育計画立案や、本学施設「ふれあいルーム 木のおうち」においての食育活動の	授業評価アンケートの自由記述より、「実践もできてよかった」との回答があり、実践部分は今後強化していくよう検討する。

			実践、およびプランターでの夏野菜栽培などを実施した。	また、教員の教え方について、全体の平均より低い部分が見られたので、来年度は授業の時間配分に注意するところから改善していきたい。
生活科学	食 1	後期	授業内課題として、自作のプリントによって、専門教育科目群の基礎となる問題を解く形で、授業を実施した。学生毎の習熟度に差があることに対し、難易度の異なる問題プリントを用意し、個別に不明点の解説を入れる時間を多く設け、一人一人の不明な点を取り除けるよう配慮した。 また、希望のある者については、授業時間外の補習を行った。	教員の教え方に関する部分で、低い点数が見られた。これについて、本授業はリメディアル教育的要素を含む選択授業で、学生の習熟度には差がある状態であった。この差に十分に対応できていなかった部分もあると考えられた。 年度毎に受講生も変化があるので、今後担当するのであれば周りの教員と相談しながら、ここに合わせた授業を実施できるように改善を行いたいと思う。
運動生理学	食 1	後期	授業中課題として、各授業で 3 題程度の記述課題を示したプリントを実施した。課題は授業内容をまとめることを中心とした内容としており、提出状況を見る限り、学生の理解と整理に役立ったように感じられた。また、合わせて質問や感想を求めるアンケートを各授業で実施し、授業に対する意見や質問を求めた。	選択授業であり、受講生に偏りがあったが、概ね全体の平均に近い授業評価が得られた。しかしながら、授業の成果に関する項目では、「強くそう思う」という評価は得られなかったので、来年度はその評価をえられるよう、より成果を実感できる事例などの話題を増やしていきたいと思う。また、自由記述に「毎回質問への回答があったことがよかった」との記入もあり、少人数の授業だからこそできた部分もあるが、今後も授業内アンケートは取り入れていきたい。

子どもの健康 と発育	食 1	後期	授業中課題として、各授業で 3 題程度の記述課題を示したプリントを実施した。課題は授業内容をまとめることを中心とした内容としており、提出状況を見る限り学生の理解と整理に役立ったように感じられた。また、合わせて質問や感想を求めるアンケートを各授業で実施し、授業に対する意見や質問を求めた。	選択授業であり、受講生に偏りがあったが、概ね全体の平均に近い授業評価が得られた。しかしながら、授業の目標や、学生への質問に対する対応の項目で、「どちらとも言えない」と回答する者がおり、これらの点を来年度は改善できるよう次の点を意識して実施していきたい。まず授業の目標は、授業内で繰り返し伝えることとする。また、質問への回答については、質問者が理解したかをよく確認するようにしていきたい。
---------------	-----	----	---	---

氏名 五木田 祐里

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
食育実践演習	食 2	前期	・パワーポイントで講義。 ・木のおうちで学生による食育発表会（親子対象）を行う。	・受講生が 2 名であったのも関係し、個別の質問に丁寧に対応できたが、受講者が増加した場合の個別対応法を検討しなければならない。 ・今年度は極めて少人数であった。受講者を募ることについて検討しなければならないと思われる。 ・授業スピードが速いという意見があがる。内容と時間の配分に気をつける。
基礎演習	食 1	前期	・パワーポイントを使用する。 ・問題を自作し学生に解いてもらう。	・時間配分が難しく、授業終了が 100 分より早くなる日が多々あった。内容と時間配分を十分に考える。また、内容も理解を

				高められるように学生の意見も取り入れながら実施できるよう計画を立てる。
製菓理論	食 1	前期	・講義した内容が「製菓実習」へ繋がるように実施。 ・パワーポイントで講義。 ・イメージできるよう、写真や現物を見せる。	・製菓において「失敗の原因は何か」を理解しすることが出来たという意見があった。 ・パワーポイントで講義を実施したが、文字が小さいという意見があった。今後、作成時に改善する。さらに単色が目立ったので色分けにも気をつける。 ・写真や資料、現物を見る事は理解を深めるのに役に立ったという意見が上がる。写真や、資料配布を積極的に実施したい。
製菓実習	食 1	前期	・「製菓理論」で講義した内容と繋げられる実習内容にする。 ・衛生管理の指導。片付け、道具の使用や食材の扱い方を指導。	・実習に入る前の説明が長いという意見と、作業工程を白板に板書してほしいという意見が出た。授業時間に影響はなかったが、学生の作業内容の理解を高めることや、作業工程を把握するために、改善は必要だと思われる。 ・「調理をする」という機会を与えることが出来たのではないかなと思われる。
フードコーディネイト／食	食 2	通年	・主にパワーポイントで講義する。 ・前期はシラバス通りに実施。 ・イメージできるよう、写真や現物を見せる。 ・1 テーマ終了時に確認問題を行う。	【授業の内容について】 ・授業内容に興味や関心を持って受講している学生が多くいた。また、自分ためになる内容であったという者も多くいた。 ・授業の資料で詳細に説明できない箇所もあったので、資料内容を十分に理解できる時間を長

			・後期は、前半はシラバス通り行い、後半は講義と学生の課題発表に向けた授業を行う。 ・授業最終日、学生発表を実施する。	く持つようにする。 【その他】 ・受講生の中で、多くは発表を実施したことが印象に残っている。食企画に関する発表会は今後も実施したいと考えている。 ・時間配分も考慮する。伝えたい内容を整理し、授業準備を行う。
--	--	--	---	--

保育科

氏名 小笠原 眞弓

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
保育のこころ	保 1	前期	前年度授業評価学生コメントで、要望が多かった子どもと関わるための簡単な遊びの習得時間を確保するとともに、2年生による手遊び歌の紹介の機会を設け実施した。	授業評価は各項目において4.6～4.9であった。 次年度も保育現場に出るための基本的な知識やマナーの学習、名札などの手づくり教材の制作を行う。また、従来、3回の現場体験の2回終了時に実施していたグループディスカッションと発表は、1回目終了後に実施し、後半の体験学習の学びを広げ深める。
基礎ゼミ	保 1	前期	教科目「保育のこころ」に関連して子どもや保育の現場を理解するための授業である。こころと同様に、複数の教員で担当しているため、教員間の連携を大事にしながら	授業評価は各項目において4.6～4.8であった。 次年度は外部講師による絵本や紙芝居の授業を組み入れ、学生の読み聞かせの技術を向上させる。

			ら授業を進めた。	
保育原理 I	保 1	前期	前年度に引き続き「保育の歴史と思想について」より、子どもを中心とする保育を導いた思想家について、グループワークとプレゼンテーションを行った。各グループから出された資料はレジュメにして配付、発表の場を設けた。	授業評価は各項目において、4.6~4.8 であった。 学生のコメントからも「自分たちで考えて取り組める授業であった」、「仲間と調べてまとめ、意見を交流出来て嬉しかった」とグループワークは好評の意見が得られた。次年度も実施する。
教育実習指導 I	保 1	後期	後期開始の 9 月中旬から 11 月 18 日の実習開始までに、実習の意義、実習生の心構えと態度、実習記録の書き方などの授業を行った。また、実習終了後は、事後指導として個人面談を行い、実習の振り返りと課題を共有した。	授業評価は各項目において、4.5~4.7 であった。 1 年次実習の課題の一つである充実した実習記録が書けるようになる為に、事前指導は記録の書き方に重点を置いて指導しているが、初めての作業に苦慮している学生も多く、さらに工夫を凝らしていく必要がある。
乳児保育 I	保 1	後期	講義科目であるが、「乳児の遊びと保育者の関わり」の授業の中で、乳児を対象とした手づくり玩具の考案、制作を実施した。	授業評価は各項目において、4.5~4.6 であった。 学生のコメントから「玩具作りは難しく奥が深いと思ったが出来てよかった」や「乳児の発達や乳児理解を深めることが出来た」との意見を得られた。ただ、クラス間で各項目の評価に差異が見られる。クラスの個性や雰囲気に合わせて授業を展開したつもりだが、さらに学生の状況に合わせた対応を心掛ける。
保育・教職実践演習（幼稚園）	保 2	後期	今年度より授業時間が 1 回 200 分から 100 分に半減したが、担当教員を 1 名増やし、	授業評価は各項目において、4.3~4.6 であった。 ただ、長年にわたりこの教科を

			連携を取りながら授業の内容や質を落とさぬよう努めた。	担当してきた率直な感想として、学生の模擬保育に取り組む姿勢が希薄になってきているように感じる。これまでの実習や授業で何度も保育を実践してきた為、意欲が失せてきているのかもしれないが、この教科目の意味をきちんと理解し、最後までモチベーションを持って取り組むよう指導したい。
在宅保育	保 2	後期	認定ベビーシッター資格取得のための教科目であり、今年度が最後の授業であった。毎授業の冒頭部分は受講生（7名）が入手してきた子ども・子育て関係のニュースを紹介した後、皆でディスカッションを行った。 また、保育学・乳幼児教育学の研究者である大豆生田啓友氏の和歌山講演を聴く機会を提供し、受講生全員が参加した。	2024 年度からは開講しない。

氏名 井澤正憲

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
図画工作	保 1	通年	平面・立体の技法基礎。	前期平面、後期立体を通して、描画や造形の種類や基礎技法の習得。次年度は開講しない。
保育内容演習 (表現)	保 1	後期	領域「表現」「発達と表現」「環境」についてテーマに合わせたプリントを作成。	子どもの描画様式について美術史の例も合わせて解説。 次年度は「表現の指導法」(通年)に変更。

子どもの表現	保 1	前期	表現のための導入編。 描く楽しさを再発見する。	ライブペイントや壁面装飾用の シールを使ってなりきりお面の 制作など、音楽と描画や身体と 表現など遊びを通した造形表現 活動。 次年度は開講しない。2年後「子 どもと表現」(通年)となる。
保育内容演習 (造形)	保 2	前期	環境を活かした演習。 空間作りと造形あそびの展 開。	制作したものを使って実際遊 び、そこから次回への課題を見 つけ、改善発展させる面白さが あった。展示学、空間、制作環境 づくりに役立つ。
子どもの表現 遊び	保 2	前期	イマジネーション豊かな表 現活動と、個々の技術を活か した舞台づくり。	グループワークの難しさを感じ たが、得るものも大きい。技術 にばかりとらわれないように事 前にしっかり表現について話し 合う。
造形表現	保 2	後期	3年ぶりに開講した講座で ある。	少人だったので個々に課題を設 け、かなり丁寧な実技指導が行 えた。

氏名 小滝 正孝

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
基礎演習	保 1	前期	情報処理演習室も利用し、 Google クラウドルームを活用 して課題を提示し、ドキュメ ントでの提出とした。各学生 のドキュメントに個別にコ メントしフィードバックを 行った。また、YouTube 等の 動画を活用し、理解を深める ことに役立てた。「木のおう ち」を活用し、実際に子供や	授業評価では、各項目について 4.5 から 4.8 の評価を得た。保 育の場で使う言葉や書き方を修 得できたという感想があった。 次年度も、保育に関係する内容 を取り入れるとともに、大学と して基礎演習で必修として学ば せる内容を充実させたい。

			親に触れることによって、保育や子育て支援について考えさせた。	
国語表現	保 2	後期	多目的コンピュータ室で授業を行い、Google クラスルームを活用して授業中に課題を提示し、ドキュメントでの提出として、個別にコメントしフィードバックを行った。また、プリントアウトした資料をパソコン画面に提示し、わかりやすい説明に活用した。YouTube 等の動画を活用し、理解を深めることに役立てた。童話の創作をワークシートを用いて順序だてて行うことができた。	授業評価では、各項目について 4.3 から 4.7 の評価を得た。少人数での授業であったので、学生の理解度を図りながら進度を決めることができた。「この授業は自分のためになった」という項目が他の項目と比較すると低かったため、次年度は、保育や一般企業への就職の双方にバランスよく対応できるよう工夫したい。
日本語演習	生 1	前期	前期は、情報処理演習室も利用し、Google クラスルームを活用して課題を提示し、ドキュメントでの提出とした。各学生のドキュメントに個別にコメントしフィードバックを行った。「木のおうち」を活用し、実際に子供や親に触れた上で、募集チラシを作成させた。保育や子育て支援について考えさせた。YouTube 等の動画を活用し、理解を深めることに役立てた。分類法や SWOT 分析を取り入れ、話し合いの技法を指導した。スライド資料とレジユメにより、効率的に課題に	授業評価では、各項目について 4.4 から 4.9 の評価を得た。「動画視聴やグループワークがあり、理解が深まった。具体的に改善点を示してくれたのでよく分かった」等の感想があった。次年度は、基礎演習と統合された科目となる。大学として基礎演習で必修として学ばせる内容を充実させたい。

			取り組ませた。	
--	--	--	---------	--

氏名 森定美也子

¹⁾ 担当科目名称	²⁾ 担当クラス	開講期	今年度実施した授業改善の試み	授業評価へのコメントと次年度に向けた改善計画
保育の心理学 I	保 1	前期	授業の回ごとにパワーポイントの表紙を作り、その回の目標を明記した。 動画を活用して、課題に関心を高める動機づけを行った。	授業評価では、「技術、能力が身についた」に関する評価が他の項目について低いことが課題である。子どもとの関係の持ち方の技術などの学習を重視していきたい。
障害児保育	保 2	前期	授業の回ごとにパワーポイントの表紙を作り、その回の目標を明記した。 DVD や動画を活用して、課題に関心を高める動機づけを行った。必要な知識をスモールステップで身に着けられるように、小テストを行った。	授業評価では、「書くことが多く、急いで書くのが大変だった」という指摘があったことが課題である。書く内容を精査し、書く負担を減らしていきたい。
心理学入門	保 2	前期	授業の回ごとにパワーポイントの表紙を作り、その回の目標を明記した。 コラージュ療法やスクイグルなどの芸術療法を取り入れ、心理学を体験的に学べるように工夫した。	授業評価では、「技術、能力が身についた」に関する評価が他の項目について低いことが課題である。カウンセリングの技術などの学習を重視していきたい。
保育の心理学 II	保 1	後期	授業の回ごとにパワーポイントの表紙を作り、その回の目標を明記した。 DVD や動画を活用して、課題に関心を高める動機づけを行った。必要な知識をスモールステップで身に着けられ	授業評価では、「教員の言葉は聞き取りやすかった」に関する評価が他の項目について低いことが課題である。動画などを見せる際に音がしっかり聞こえるよう配慮していきたい。

			るように、小テストを行った。	
特別支援教育	保 2	後期	授業の回ごとにパワーポイントの表紙を作り、その回の目標を明記した。 障害児の指導計画表の書き方について、学生が書いた内容をその都度添削して返却し、書き方が身につくようなフィードバックを心がけた。必要な知識をスモールステップで身に着けられるように、小テストを行った。	評価表のフィードバックについては職場で生かせることができる点公表であったが、書く時間がもっと欲しかったというコメントもあった。各時間を確保していきたい。
子ども家庭支援の心理学	保 2	後期	授業の回ごとにパワーポイントの表紙を作り、その回の目標を明記した。 DVD や動画を活用して、課題に関心を高める動機づけを行った。必要な知識をスモールステップで身に着けられるように、小テストを行った。	授別のコメントで書く内容が多いとの要望があったので、内容をコンパクトに修正するように対応していきたい。
心理学入門	食 2	後期	授業の回ごとにパワーポイントの表紙を作り、その回の目標を明記した。DVD や動画を活用して、課題に関心を高める動機づけを行った。必要な知識をスモールステップで身に着けられるように、小テストを行った。	授業評価では、「技術、能力が身についた」に関する評価が他の項目について低いことが課題である。カウンセリングの技術などの学習を重視していきたい。

氏名 今西 香寿

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
--------------------------	-------------------------	-----	--------------------	----------------------------

子どもの表現 遊び	保 2	前期	昨年度は、体の動かし方や声の出し方などの身体や声を使った表現まで練習をする時間を確保することが出来なかった。それは、シナリオができておらず、身体や声を使った表現を取り入れる練習を行いながら、シナリオを訂正していたため、訂正に時間がかかったからである。今年度は、題材、シナリオの作成後に、読み合わせの時間を確保し、シナリオを確認後に、身体や声を使った表現活動の時間を確保できるように取り組んだ。	授業評価の自由記述において、「楽しかった」というコメントが多く書かれていた。また、「みんなでつくり上げていく」や「協力する大切さ」など、チームで行うことの大切さを感じたようであった。来年度も、今年度同様に、楽しさの中にチームで行う難しさや連携について気づきや学びができ、この経験が保育者になって活かして欲しいと願う。昨年は、時間がないとの意見が多く挙げられたが、今年度はそのような意見は少なかったもので、来年度も今年度同様に取り組んでいきたいと考える。
子どもの表現	保 1	前期	造形表現・身体表現のオムニバスで授業を行った。造形表現・身体表現を同じ時間に7コマずつ行い、学生を半分に分けて行った。	授業評価のアンケート結果において、すべての項目において、4.6 以上の結果を得ることができた。学生においては納得のいく授業であったのではないかと考える。自由記述においても、「すごく楽しかった」や「楽しく学べた」などのコメントが多く書かれていた。昨年度と同様で、「ダンスができて楽しかった」や「いろいろなものを作れて楽しかった」などのコメントも多く書かれていたが、今回の経験が子どもたちにどのように影響するのかについて、学生たちに伝えていかなければいけないと考える。

幼児体育 I	保 2	前期	毎回、授業終了した翌日に振り返りとして授業内容をノートに書き、提出をさせている。このノートが今後就職をした際に参考資料になると考える。よりこのノートが充実したものになるよう、今年度は遊びのねらいや運動遊びから出現する動きの記載を含めて記入することとした。学生のノートを添削し、学生がとらえ違いをしているところやノートに書かれていてよかった点などを授業開始時に話をするように取り組んだ。	今年度も昨年度と同様に、運動遊びの実践をしながら、指導法などを取り入れながら授業を行った。授業評価の自由記述において、学生の中には、運動あそびがあまり好きではなかった学生も「楽しかった」や「いろいろな遊びを知ることができた」などのコメントがあった。今回の経験から、今後、保育士になった時に、運動あそびの楽しさを伝えてほしいと願う。また、授業内容の書かれたノートを添削していると、学生の中には、とても分かりやすく、私自身も自分の授業内容が分かるくらい書いている学生もいた。私自身も至らない点など、大変勉強になった。また、学生たちが想像しやすいように、また、子どもと運動あそびを一緒に行うことでこんなに楽しいことがあると理解を深めてもらうために、私が研究の為に行っている幼稚園での子どもの運動あそびの様子を話すよう心掛けている。実体験の話が役立つという意見もあり、来年度も研究を継続させながら、授業を行っていきたいと考える。
保育・教職実践演習（幼稚園）	保 2	後期	今年度より授業をオムニバスの中の一人として、担当をした。授業の担当は、運動あそびと運動あそびの模擬保	授業評価の自由記述では、「模擬保育に取り組めてよかった」というコメントが多かった。「模擬保育に取り組み、学びを深める

			育の指導を行った。	ことができた」や「実践的な学びにつながった」など書かれていた。模擬保育に取り組む際は、事前に指導案を指導し行っていたが、今後も同じように取り組んでいくが、より丁寧に指導するように心がけていく。
保育内容演習 「健康」	保 1	後期	子どもの健康について、保育者が理解しておいてほしい内容について、パワーポイントを用いて、学生にもパワーポイントの内容をプリントアウトし、配布をして講義を行った。昨年度、理解が低いと感じたところは、プリントを作成するなどし、より理解が深められるような方法をとった。	昨年度と同様で、授業評価の自由記述に「このままでいい」という意見もあったが、「難しい」というコメントがあった。「プリントの配布で行うので、何を伝えたいのか分からない」などのコメントもあった。大事なところを穴埋めにし、取り組んできたが、今後はプリントの作成の仕方もどうすればより理解しやすくなるか考えながらと取り組んでいきたい。
幼児体育Ⅱ	保 2	後期	幼児体育Ⅰでは、遊びの引き出しを増やすことを目的に行ったが、幼児体育Ⅱでは学生自身が遊びを考え、考えた遊びで模擬保育を行うなど、学生自身が取り組んで行う授業を行った。また、保育者になった時に、役立つように、運動会で行うダンスの創作方法や組遊びなどについても取り組んだ。	選択授業ということもあり、学生も学ぶ意欲のある学生が集まり、昨年度と同様で、少人数であった。受講学生が少なく、丁寧に授業を行うことができた。その結果、授業評価も高い評価であった。 学生の中でもできないことや苦手なこともあり、それを克服する指導法や克服した時の気持ちなど、子どもでも起こりうる経験を学生も同じような経験をすることができた。今後も学生たちにさまざまな指導法を伝えていきたい。

氏名 桑原 徹也

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
地域子育て・ 子育て支援論	保 2	前期	外部講師を招き、実際の現場 での取り組みを紹介する。	授業評価では、各項目について 4.27 から 4.81 の評価を得た。 外部講師による講義や実技は学 生にとって新鮮で貴重な機会と なった。また、学生からの評価 も良好であった。しかし、スケ ジュールの都合上外部講師の授 業が後半に偏ってしまい、各授 業のまとめをする機会を設ける ことが出来なかった。14 回の授 業で、できる限り連続性を保障 することが課題となった。
子ども家庭支 援論	保 2	後期	実際に現場で起こるエピソードを提示し、グループワークとその発表により、多面的な問題解決の方法をクラスで共有した。	授業評価では、各項目について 4.40 から 4.74 の評価を得た。 授業では、学生からの意見をも とに教員からのフィードバック を行った。自由意見からグルー プワークについて、おおむね好 評な評価が見られた。また、現 場で実際に使用する書式を用い た演習課題に対する評価も高か った。一方、「難しかった」とい う意見も一定数見られた。多面 的な考察では、答えが一つでは ないため混乱を招いた可能性が 考えられる。教員からのフィー ドバックの強化を図りたい。
保育実習指導 I	保 2		学生自身の実習で得た学び について 5 分間のスピーチ を行った。まとめる力、伝え	授業評価では、各項目について 4.44 から 4.69 の評価を得た。 下位尺度すべてに大きな偏りは

			る力、自身の振り返りを狙った。	なく、バランスの取れた評価となった。発表の方法をスピーチに限らず、パワポやスライドなども活用できるよう発展編として別授業（実習指導Ⅲ）で取り入れていきたい。
子ども家庭福祉	保 1		授業の内容上、制度や法律を多く扱うが、それらがどのようなケースで活用できるかなど、学生が主体的に考察できるよう質疑応答の機会を設定する。	授業評価では、各項目について 4.46 から 4.97 の評価を得た。評価はクラス間で大きな開きが見られた。質問項目「職員の教え方について」に着目すると、それぞれの下位尺度に 0.14～0.37 の開きがあり、すべての尺度で A 組の評価が高かった。特に差が見られた下位尺度は「学生の質問に対して適切に対応していた」であった。授業では、学生への質問や発言の場の提供に努めたが、明らかに A 組での発言率が高かったことが結果として表れている。また、他のすべての項目でも A 組の評価が高い結果となった。このことから、授業への主体的な参加が評価へ繋がっていることが考えられる。今後、発言だけではなくグループワークや Google クラウドルームを活用し、個々の学生が主体的な参加ができる授業展開を目指していきたい。
社会福祉	保 1		ワークシートを活用し、主体的な授業参加を目指す。	授業評価では、各項目について 4.10 から 4.79 の評価を得た。授業では、ワークシートを活用。重要な項目を記述できるよう作

				成した。学生からもおおむね好評であり、作業をすることにより授業参加の充実が図れていることが読み取れた。ただし、記述スピードに学生差が見られるため、記述量の調整を図りたい。
社会的養護 I	保 1		問題意識と興味関心を持つよう実例を多く交える。	授業評価では、各項目について 4.23 から 4.66 の評価を得た。授業では、現場の事例などを多く取り上げ、今後の動向を考察できるよう努めた。自由記述から「一つひとつの項目を掘り下げた説明が分かりやすかった」「現場での体験談が参考になった」といった評価が多く得られた。幅広い内容を学ぶ必要があるため、すべてとはいかないが、今後も選択的に掘り下げる内容を設定し、学生の理解を得られるよう努めていく。
保育実習指導 I A	保 1		実習への備えとして基礎的な知識を提供する。	授業評価では、各項目について 4.33 から 4.81 の評価を得た。自由記述から「実習への不安が和らいだ」「実習で気を付けるポイントが知れた」といった実習に直結する内容への評価が高かった。今後、実習生としての振る舞いや実習の取り組み方など、具体的内容を充実させていく。
地域子育て・子育て支援論	生 1		外部講師を招き、実際の現場での取り組みを紹介する。	授業評価では、各項目について 4.47 から 4.82 の評価を得た。外部講師による講義や実技は高評価であった。なかでも実技や

				実際の支援への関心が高いため、具体的援助内容について充実していきたい。
地域子育て・子育て支援論	食 1		外部講師を招き、実際の現場での取り組みを紹介する。	授業評価では、各項目について 4.33 から 4.67 の評価を得た。外部講師による講義や実技は高評価であった。なかでも「木のおうち」での子どもや保護者との関わりが高評価であった。実践的な内容の充実を図りたい。

氏名 大道 えりつ

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
保育のこころ	保 1	前期	前年度の改善計画では、現場体験や実習時に必要な名札作り方等をもっと詳しく知りたいなど、現場体験に向けての事前準備や不安を緩和するためのフォローが必要であると挙げた。これらの課題に対して以下の改善を試みた。 ・手作り名札や折り紙の見本等の課題に対して口頭説明以外に、過去の学生が作成したものを提示し、学生がどのようなものを作成するのか、そしてどのような基準で評価されるのかをわかりやすいようにした。 ・わからないことや確認したい事項を個別で質問しやすいよう、作業中に教員がク	授業評価では、各項目について 4.55 から 4.87 の評価を得た。特に「授業の成果について」の項目では、全体の平均ポイントを上回り、現場体験に向けて必要の心得や準備等が実践的で役に立ったと感じた。また、相関分析では、「私はこの授業を意欲的に取り組んだ」と「この授業を通して新しい知識、技術、能力が身に付いた」の項目間に +0.87 の相関が見られ、学生は実践で役立つ知識を得た実感があつたことから、授業を意欲的に取り組めたことがわかった。個別のコメントから「疑問点はすぐ解決できるように授業を進めてくださった」「先輩方の名札の例を見せていただき、イメージしやすくスムーズに作業を進め

			ラスを回り、個別対応を行った。	られた」とあり、来年も見本を示すや、個別対応ができる体制を継続していきたい。「気温が高い日はもう少し涼しくしてほしい」等のコメントから、課題として集中して授業を受けられる学習環境が必要であるとわかり、実施教室を再検討したい。
基礎ゼミ	保 1	前期	前年度に引き続き、学生同士が交流できる機会を設け、話し合いや発表を通して学び合いや振り返りができる環境作りに力を入れた。また、現場体験前の子どもの発達段階や特徴に関する講義では、資料に沿って解説した後、映像等を流し、子どもの発達する姿がイメージできるように工夫を施した。	授業評価では、各項目について 4.58 から 4.82 の評価を得た。各項目の相関分析では、「この授業は自分のためになる内容だった」と「授業の目標が分かりやすく示されていた」の項目間に +0.889、「授業の目標が分かりやすく示されていた」と「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」の項目間に +0.866 の相関があったことから、学生は行っている活動が現場体験での学びに結びついていることを実感していることがわかった。また、授業コメントでは、「グループ活動の中で自分の考えを深めることができた」「子どもの発達段階を知れて、現場体験でも約に立つことができた」など、話し合いの場が学生の振り返りや学びにつながったことがわかった。改善点として、現場体験前に子どもの発達段階の知識のみならず、基本的な対応や援助方法についても伝える時間を設け、現場体験中に実践できるようにしてい

				たい。
キャリアデザイン	保 2	前期	前年度の改善計画では、就職活動に必要な応募書類作成により授業時間を設けることや、就職活動の流れをより分かりやすく示す必要があると挙げたため、今年度の授業では以下の工夫を行った。 ・履歴書作成方法を授業中に見本を示しながら伝え、提出課題として書いてもらった。提出後は履歴書の添削を行い、学生が就職活動時にすぐ書類作成ができるようにした。 ・授業では、保育職の就職活動に関する説明以外にも、幼稚園か保育所か、公立か私立かなど、就職先を選択する際の考慮ポイントについても解説し、説明の合間に個人やペアワークを入れ、進路を考える機会を設けた。	授業評価では、各項目について 3.95 から 4.42 の評価を得て、全体の平均と比べて評価が低かった。特に「この授業は興味や関心が持てた」評価が 3.95、そして「この授業に意欲的に取り組んだ」の評価が 3.97 と 4 を下回わり、時期的に就職活動より実習に目を向けている学生が多く、自己分析や書類作成の課題に躓く学生が多くいた可能性がある。その反面、相関分析から、「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた」の項目間に+0.867 の相関があったことから、就職活動に目を向けている学生にとっては、就職活動の流れや課題が役立ったことがわかった。それは「履歴書の下書きを書く授業があったので、就職活動の時にとても役にたちました」や「履歴書の書き方や自己分析、お礼状の書き方等は就活に役立った」などの授業コメントから伺えることができ、来年度も引き続き履歴書の下書き課題を継続していきたい。より興味を持ってもらえる授業工夫として、カラー診断や性格診断を実施後、グループワークを取り入れ、学生同士が話し合い、自己理解を深め

				られる活動を取り入れつつ、なぜ自己理解や書類作成は就職活動を行う上で大事なのか等を話し合いの中で理解し合える学習環境を作っていきたい。
幼児理解と教育相談支援	保 2	前期	昨年度に引き続き、各回において講義を行った後、講義内容と関連する事例検討、動画閲覧、グループワークを取り入れ、学生が学びを深められる工夫を行った。特に動画を使った事例検討や模擬カンファレンスでは、学生が現場で担任を持つことを想定し、同じ子どもたちが登場する動画を複数回に分けて場面別で見ってもらうことで、子どもの姿をとらえる方法や対応について考えてもらうことを試みた。また、保護者対応などで実践力を身につけられるよう、ロールプレーを多めに取り入れ、実施後に振り返り時間を設け、良い見本等を示すようにした。	授業評価では、各項目について 4.23 から 4.67 の評価を得た。相関分析では、「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた」の間に +0.887、「この授業は自分のためになる内容だった」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた」の間に +0.886 の相関があったことから、事例や実践的な内容や課題を取り入れたことで学生は授業での学びが保育現場で活用できると実感できたことが伺えた。授業コメントでも「先生の体験談なども交えた講義だったので勉強になった」や「事例などがあってわかりやすく授業を受けることができました」とあり、来年度は講義の中に事例、グループワーク、体験談を引き続き盛り込んでいきたい。また、「授業内容が難しかった」、「期末試験を時間内に終わらせることができなかった」等の意見もあったため、より丁寧な説明や期末試験内容の再検討を行いたい。

子育て支援	保 2	後期	前年度の改善計画では、「他の授業で学ぶ内容が重なる部分があり、新しい学びが少なかった」の課題に対応して、教科書の変更と使い方の工夫を行った。具体的な工夫点として、授業内容の重要部分はテキストを読んで下線を引いてもらった後、解説を行うようにした。また、学生が授業内容に興味関心を持ってもらえるよう子育て支援に関する最新ニュースを定期的学生に紹介し、保育現場での現状と課題について知ってもらうことを試みた。	授業評価では、各項目について 4.18 から 4.63 の評価を得た。相関分析では、「学生の理解に合わせて授業が進められていた」と「学生の質問に対して適切に対応していた」の間に+0.97、「私はこの授業に意欲的に取り組んだ」と「この授業を通して、新しい知識、技術、能力が身についた」の間に+ 0.937 の相関があったことから、教科書を使用し、重要なポイントを解説する授業スタイルは学生にとってわかりやすいことがわかった。また、最新のニュース等を授業で紹介し、取り入れることで、学生の興味関心を引き出すことができたことがわかった。来年度は引き続き、ニュースの紹介のみならず、各トピックスに対するアンケートやディスカッションなどを実施し、話し合いの場を増やしていきたい。
-------	-----	----	---	--

氏名 渡辺 直人

¹⁾ 担当科目名称	²⁾ 担当クラス	開講期	今年度実施した授業改善の試み	授業評価へのコメントと次年度に向けた改善計画
教育課程論	保 1	後期	プリントや PowerPoint 等を使用した見通しの持ちやすい授業	次年度では、本年度よりも能動的な学びにさせたい。
保育内容総論	保 1	後期	ディスカッションやグループ活動を取り入れた能動的な授業	次年度では、本年度よりも、より保育の本質につなげられる授業へと昇華させたい。
保育・教職実	保 2	後期	振り返りの機会を多く取り	次年度では、本年度よりも、総

実践演習（幼稚園）			入れ、深い学びのある授業	括の時間を多めに取り、就職後にも活かせる授業へと昇華させたい。
基礎演習	保 1	前期	PC の基礎を、前年度よりも丁寧且つ簡潔に説明したわかりやすい授業	次年度では、基礎のみならず応用も視野に入れた授業へと深化させたい。

氏名 金谷 有希子

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
保育実習指導 II	保 2	通年	実習事前指導として、保育実習 I（学外実習）の評価所見を開示した後、各自が自己評価を行い、課題を省察する時間をとった。また、保育指導力向上のため模擬保育を実施したり、指導計画案を立案させたものをフィードバックしたりした。 実習後には、個別の面談を実施し、個々の課題解決に向け助言を行った。	本授業では、保育実習の総括と個々の課題の明確化を目標に行っている。授業評価より実習を振り返り学びを深められたとの記述が複数あり、その目標は概ね達成できたのではないかと考える。ただ、クラス間で授業評価のポイントに差が見られる結果であった。クラスの雰囲気や学生一人ひとりに合わせた授業を展開していく必要があると考える。
保育実習指導 I	保 2	通年（1年後期～2年前期）	実習体験を発表する機会を設け、学んだことを整理し言語化する力を養うことや学生同士が学びを共有することを目的として実施した。また、外部講師を招き、保育士として求められる資質・能力を具体的に考えるきっかけとした。	実習体験の発表（5 分間スピーチ）には苦手意識があったようだが、人前で発表したことは自信になったと答えた学生や、他者の発表から学びを得られたとの記述が多く見られ、有効な内容だったと捉える。今後は、他者の発表に対し質問したり、意見を交わしたりできるような雰囲気づくりを心掛け、学生それぞれの探求心を育てていきたい。

保育のころ	保 1	前期	現場体験参加にあたり、手作り名札を授業内で制作しているが、昨年度の授業評価アンケートにおいて「名札の作り方をもう少し詳しく知っていたかった」との意見があった。口頭での説明だった為、そのような意見が出たものと思われる。その反省を踏まえ今年度の名札制作の説明では、上級生の手作り名札の写真（画像）を例に挙げ、パワーポイントや動画を用いながら具体的な留意点や準備物、制作方法を伝えた。	先輩の名札の例を見ることで、イメージがしやすくスムーズに進められたとの記述があり今年度試みた改善に一定の効果は見られたのではないかと考える。今後も学生の反応や意見を確認しながらよりよい授業づくりに努めていきたい。
基礎ゼミ	保 1	前期	複数教員で授業を担当しているため、授業内容の共通理解や教員間の連携を強化し授業を実施した。また主担当でない回では、机間巡視し個々への対応を心掛けた。	授業内容が分かりやすかったとの意見が多かった。引き続き担当者間で授業内容や学生指導の意思統一を図っていきたい。
保育実習指導 I A	保 1	後期	パワーポイントだけの一方的な講義ではなく、発問する機会や実践学習を通して保育実習の意義や目的を理解できる授業展開とした。また、実習記録の記述力には学生により大きな差があるため、指導が必要な学生には、提出物に対しコメントを入れたり、個別に指導の時間を設けたりした。	実習に大きな不安を感じていた学生もいたようだが、実習に際しての心構えや留意点が理解できたとの記述が多く見られ、実習事前指導の最低限の目的は達せられたと考える。学外実習の結果から、実習指導に含めるべき内容が見えてくると考えるので、外部評価に目を通し、来年度の授業内容に反映していきたい。

氏名 仲谷 徹子

1)担当科目 名称	2)担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
音楽	保育科 1 年	後期	パワーポイントの資料や授業内容プリントはノートに貼り付け、授業内容の考察と感想も同時に書かせ、講義内容を可視化した。少人数の受講であったので、質疑応答や実技はマンツーマンに近い指導を行った。	授業評価の結果、意欲的に取り組んだ (4, 5p)、技術が身に付いた (4, 5p) とどちらも高いポイントがつけられていた。来年度は、他学科の学生も受講することを見据え、授業内容の変更や講義についてのわかりやすい丁寧な説明が必要になると考える。
ピアノ I	保育科 1 年	通年	グレード別に課題曲に取り組み、年 2 回の試験を実施した。日頃のレッスンはレッスンノートに書かせ、学習内容が積みあがるようにした。	意欲的に取り組んだ (4, 789p)、技術・能力がみについた (4, 793p) の結果であった。アンケートの中に後期の課題が多すぎた (15 曲)、楽譜を簡単な方で取り組んでも良いのではないかな等の意見があった事を踏まえ、課題曲の見直しを行う。
ピアノ II	保育科 2 年	通年	10 月の発表会の曲を 5 月から行い、早くから取り組んだ。同時に 15 曲の弾き歌い曲も 3 曲は春休みの宿題にするなど、前倒しに準備を進めた。	G P と自己評価の相関係数は中から無であった。曲の内容や奏法を知るが高い評価を得ていた。更に自己評価が高まるよう、到達目標を細分化してそれぞれが、達成した度合が理解できるようにしたい。
パーカッション	保育科 2 年	前期 後期	発表会の曲だけではなく、好きな曲、やってみたい曲などを聞き取り、意欲的に参加できるように考えた。曲によって違う楽器が経験出来るように、ローテーションを行った。最後に楽器について図書	クラスによって G P と自己評価の相関に差異が出た。自己評価が低い学生は音楽経験が少なく、到達度がわかりにくいのがわかった。それを踏まえ、到達目標や評価基準をはっきりと示し、実技における達成度を提示

			館で文献を調べレポート提出を行った。	する必要がある。
--	--	--	--------------------	----------

氏名 石川 裕子

¹⁾ 担当科目 名称	²⁾ 担当 クラス	開講期	今年度実施した 授業改善の試み	授業評価へのコメントと 次年度に向けた改善計画
保健体育講義	生食 1	前期	身体に関することや、応急手当等については、実際に身体を動かしながら授業内容を深めた。	授業評価から、体の仕組みや、今まで知らなかった身体のことについて知ることの楽しさを感じてくれたように感じる。 次年度も、身近な内容を取り入れ、興味関心を深められるようにしたい。
保健体育講義	保育 1	前期	身体に関することや、応急手当等については、実際に身体を動かしながら授業を進めた。また、保育の現場でも活用できるよう、子どもの身体についても知識を深められるような内容を行った。	授業評価から、実生活と繋がっている内容だったため、今後の生活に取り組みたいということや、自分の健康について見直すことができたというコメントがあった。 次年度も、学生が実際に生かすことができる情報を提供し、健康への関心を深められるような内容にしたい。
保健体育実技	生食 1	通年	身体を動かすことの楽しさと、できるようになるという達成感を味わってもらえるよう、年間を通じて同じような内容を取り入れながら行った。	授業評価から、ただ走る・跳ぶ・投げるだけでなく、身体の使い方を意識したストレッチや、みんなで楽しめるスポーツを行えたことに楽しさを感じたようである。 次年度も、体育の楽しさを伝えながら、学生同士がコミュニケーションを取りながら活動できるような内容にしたい。
保健体育実技	保育 1	通年	身体を動かすことの楽しさ	授業評価から、リズムトレーニ

			と、できるようになるという達成感を味わってもらえるよう、年間を通じて同じような内容を取り入れながら行った。 また、授業で使用する音源などについては Google classroom で共有したり、グループワークを多く取り入れ、コミュニケーション能力を養った。	ングやストレッチなど、中高の体育の授業では実施されていない内容を取り入れたことや、保育現場での指導と繋げながら実践したことでより学習が深められたように感じる。 また、声が響いたため聞き取り辛い時があったというコメントがあったため気を付けたいと思う。 次年度も、より学生が興味を持てるよう、手軽に出来て楽しめる内容を取り入れたい。
--	--	--	---	---